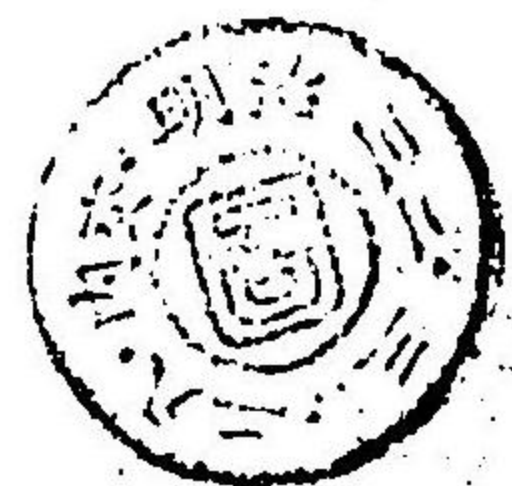


本書ヲ讀ムモノハ

新撰地理外國之部附圖

ヲ必ズ參照スベシ



地 理 科 教 育 用 書
中 等 教 育 用 書

新撰地理
外國全
之部

理學士山上萬次郎編



東京

合資
會社

富山房

中等新撰地理 外國之部

緒言

一、余は、從來の著述に、一大改訂を加へ、明治廿九年末を以て、新撰中地誌外國之部を編述したるに、直ちに中等學校の教科用として、世に行はるゝに至れり、然れども、其後中學校教科細目の發表あり、又學友及び教授當局者より、續々該書に就ての評論に接したり、故に余は必要なる修正を施して、以て本書を編成するに至れり。

二、本書は、中學校教科細目に準據せり、然れども、中等學校に於て、比較的詳密に授くべき、清韓兩國は、教材の分量、及び教授の順序より見るも、これを最後に授

くべきの至當なるは、理論上及び經驗上、余の確信する所なり、但し教師の注意により、第二章アシア總論を終りたるの後に、適當の時間を割て、清韓兩國の概説を授くるは、余の全意を表する所なり。

三、中等學校の比較的上級に於て授くべき、外國地理に在ては、必ずしも旅行體を用ふべきの要なし、且現今世界交通の有様に於ては、世界の本往還と稱すべき通路は、其水陸如何なるを問はず、其數多からざれば、旅行體のみを以て、世界地理の全體を説き盡さんことは、到底望み得べからず、故に余は系統的に、章節を分て論述したり、然れども適當なる汽船航路、又は鐵道によりて、時々圖上に旅行を試みて、學生の興味を喚起せんことは、余の切望に堪へざる所なり。

四、人文地理、特に實業及び軍備に、重きを置きたるは、余の特に一言する所なり。

五、地名の稱呼に就ては、左の方針を取れり、其理由は繁に涉り、僅々の頁を以て、説き盡すこと能はざるにより、單に要點のみを記す。

(イ) 清韓兩國の地名は、漢字を用ひ、其讀方は漢音とす、(但し貿易港、其他二三の例外あり)。

(ロ) 其他の地名中、已に日本的となりたるもの、例之ばイギリス、オランダ等の如きは、其儘これを用ゆ。

(ハ) 清韓兩國の地名、及び二三の例外、(裏海の如し)を除き、大抵片假名を用ふ。(但し本邦の條約文、其他公文には、難詰にして都合なる漢字を當つるの惡弊あり、これに注意すべし。)

(三)右の地名はすべてイギリス読み、最も近きものを取る、但しフランスの地名は、フランス読み、ドイツの地名は、ドイツ読みによる、右の中、地方によりて、異なる読み方あるものは、一地方のものを用ふ、例之ば、ハンブルヒ、ケーニツホスベルヒと讀めるが如し。

(ホ)各國の原音に従て讀むことは、本邦現今の程度に於て、これを實行する時機、尙早しと認むるにより、此法を採用せず。

(三)片假名は、すべて外國音に類似するを主眼とせり、但し成るべく、精密に一致せしめんことは、國字改良又は新國字製造の問題を先決するに非れば、望み得べからず、故に強て此點に重きを置かず、又イギリス語を主たる

外國語とする、學校に於ては、片假名に關せずして、正則的の讀み方を授くるも可なり。

六、地名に對する、外國語の記入に就ては、左の方針を取れり、但し其理由は、繁に渉るを以て、大抵省略す。

(イ)清韓兩國の地名、例外あり、及び二三の場合を除き、イギリスにて呼べる原名を、本文の左側に記入し、下に番號を附し、上段に全じ番號を以て、ドイツ、フランスの原語を重ねて記す、其例左の如し。

上段。 本文。

2. Europa Europe 上はドイツ。 下はフランス。 ヨーロッパ 2 Europe

(ロ)イギリス的に非る地名の場合に於ても、本文の左側に、

之に相當する原名を記し、上段にドイツ、フランスの原語を重ねて記す、其例左の如し。

上段。

本文。

5. Kaspischer See
Mer Caspienne

裏海
Caspian Sea

(ハ)岬、島、灣等の語に對しては、二三の例外を除き、大抵原語を省きたり、故に語尾に就て、不審を抱くこと勿れ、其例左の如し。

上段。

本文。

8. Persischer
Persique

ペルシア灣
Persian

(三)冠詞は、特別なる場合の外、特に之を除きたり、故に必要あるときは、之を補加して授くべし。

(ホ)原名一定せざるものは、アンドレー、スチーレル等、信用すべき地圖より、これを撰定し、最も普通なるものを用ひたり。

(ヘ)ハ)に述べたる理由により、原名の終りに、句讀・、等を切ることを廢したり。

七教授當局者は、最近統計年鑑を参照すべし、第十七日本帝國統計年鑑は、明治三十一年十二月に出版せられ、其價貳圓五拾錢なり、世界に關するは、Statesman's Year-Bookを良しとす、最近のものは、ロンドンに於て、明治三十一年二月に出版せられたり、但し丸善にて價五圓五拾錢なり。

又余が別に著す所の新撰大地誌前篇世界之部、卷之一、及び卷之二は、本書に對して、必要なる参考書なり、但し第二冊の上梓は、本書に先てりと雖も、本書實際の脱稿は、大地誌第二卷脱稿の前にありしを以て、讀者は此點に注意せんことを要す。

八、本書に對するの地圖、繪圖、練習用白圖等は、附圖として、別にこれを作る、本書を讀むものは、必ず右の附圖を參照すべし。

九、地名に對する外國の原名を、如何にして容易に記憶せしむべきかに就ては、余は多少の考案なきに非ず、中新撰地圖外國の部の成るの日に於て、之を發表すべし。

十、本書は、成る可く、材料を豊富にしたるを以て、適當

なる加除をなせば、中學校の教科用たると、全時に師範學校の教科用たるを得べし、これ編纂上、當初より注意したる所なり。

十一、三外國語の原名を加へたるは、是等三外國語の一を、中等教科の上に課する、學校にも適せしめんが爲めなり、然れども、これが爲めに混雜を招くの憂を慮りて、ドイツ、フランスは上段に置くの注意を取れり。

十二、從來外國地理を教ふるの上に於て、往々世人の誤解せる二大欠點あり、一は自ら尊ぶの極、排外的思想に陥り、一は自ら卑むるの極、外國崇拜の主義に傾けり、本書に於ては、力めて

此弊を避けたと全時に、列國の真相、世界の現状、有
の儘にこれを記載し、成るべく議論に涉らず、而して
本書の終りに於て、**本邦の位置**なる一章を加へ
たる、著者微意の在る所、具眼の士、これを歓迎するに
吝ならざるは、余の確信する所なり。

十

明治三十二年三月

上
山田萬次郎識

中等新撰地理。外國之部。目次。

上篇

上篇頁

第一章。世界總論。

一。

第一節。天文地理。

一。

第二節。地文地理。

三。

第三節。人文地理。

九。

第二章。アジア。

三一。

第一節。總論。

三一。

第二節。北アジア

五八。

一、シベリア。

五八。

二、中アジア。 七四。
三、ユリカサス。 七八。

第三節。 西アジア。

一、イラン諸邦。 八一。
甲、ベルチスタン。 八一。
乙、アフガニスタン。 八二。
丙、ペルシア。 八二。
二、アラビア。 八五。
三、アジアトルコ。 八七。

第四節。 南アジア。

一、印度。 九〇。

附セイロン。 九七。

フランス領印度。 九七。

ポルチガル領印度。 九七。

ネポール。 九八。

ブータン。 九八。

二、印度支那。 九八。

甲、フランス領印度支那。 九八。

乙、シナムロ。 一〇一。

丙、イギリス領海峽殖民地。 一〇四。

丁、ビルマ。 一〇四。

三、マレー群島。 一〇五。

第三章。オセアニア。

一一〇。

第一節。總論

一一〇。

第二節。邦土誌。

一一〇。

一、オーストララシア。

一一一。

甲、オーストラリア。

一一一。

乙、タスマニア。

一一〇。

丙、ニューギニア。

一一〇。

二、マレイシア。

一一一。

三、ポリネシア。

一一三。

中篇

中篇頁

第四章。ヨーロッパ。

一。

第一節。總論。

一。

第二節。ロシア。

一四。

第三節。スウェーデン、ノールウェー。

二三。

第四節。デンマーク。

二六。

第五節。ドイツ。

二八。

第六節。オーストリア、ハンガリー。

三七。

第七節。スウェイツル。

四二。

第八節。フランス。

四五。

第九節。ベルギー。	五一。
第十節。オランダ。	五五。
第十一節。イギリス諸島。	五八。
第十二節。スペイン。	七三。
第十三節。ポルチユガル。	七九。
第十四節。イタリ。	八二。
第十五節。バルカン半島。	九一。
第五章。アフリカ。	九八。
第一節。總論。	九八。
第二節。邦土誌。	一〇九。
第六章。アメリカ。	一一九。

第一節。總論	一一九。
第二節。南アメリカ總論。	一二〇。
第三節。南アメリカ邦土誌。	一二八。
第四節。北アメリカ總論。	一三六。
第五節。北アメリカ邦土誌。	一四六。
一、西印度諸島。	一四六。
二、中央アメリカ。	一五〇。
三、メキシコ。	一五三。
四、合衆國。	一五六。
五、イギリス領北アメリカ。	一七〇。

下篇

第七章。東アジヤ。

第一節。支那。

總論。

地方誌。

イ、支那本部。

ロ、滿洲。

ハ、蒙古。

ニ、新疆省。

ホ、青海。

ヘ、西藏。

下篇頁

一。

一。

一。

二九。

二九。

四四。

四八。

五〇。

五一。

五二。

第二節。朝鮮。

總論。

地方誌。

京畿道。

南韓。

北韓。

附香港。

附澳門。

五三。

五五。

五六。

五六。

六二。

六二。

六三。

六六。

六九。

第三節。本邦の位置。

新撰地理之外國上篇

Erde
Terre

等中 新撰地理。 外國之部。

理學士 山上萬次郎著。

第一章。 世界總論。

第一節。 天文地理。

位置。地球は太陽系統に屬する八大遊星の一にして、金星と火星との間に横り、其太陽との距離平均三千八百萬里あり。

二、形狀及び大きさ。地球は殆んど球狀にして、兩極に少しく扁平なり、其最短直徑の長さ三千二百三十八里にして、最大直徑は三千二百四十九里なり、其面積三千三百萬方里

(世界總論) 天文地理

なり。

三、運動。地球の運動に二種あり、一は最短直径を軸として、一日間に一回轉をなすものにして、これを自轉¹と稱し、一は太陽を中心として、一年間に其周邊を一回轉するものにして、これを公轉²と稱す、自轉は晝夜の別を生じ、公轉は四季の差を生ず。
Revolution

四、區劃。地球自轉の軸(地軸)の兩端(極)二點を起點とし、經緯線を作りて地球上に於ける位置と區劃とを定む、即ち極より極に引ききたるは子午線にして、イギリスの首府ロンドンの近傍、グリーンニツチを通過するを本初子午線とし、西經十七度四十七分の子午線(アフリカの西なるカナリー島を

通ず)によりて地球を東西兩半球に分ち、又赤道によりて地球を南北兩半球に分つ、而して地球の表面は水と陸とに分れ、水は二千四百萬方里、陸は八百八十萬方里を占め、水陸の比は凡そ二、八と一との如く、且陸は北半球に多く、水は南半球に多し、今ロンドン及びオークランドを兩極とし以て地球を二分するとき、一は陸最も多く、一は水最も多き水陸兩半球をなす可し。

第二節。地文地理

一、陸界。

區分。陸地は東大陸及び西大陸に分る、これ其東西各半球の位置に従へるなり、更にこれを細別して六大陸とす、即

- 1 Asien
Asie
- 2 Europa
Europe
- 3 Afrika
Afrique
- 4 Oceanien
Océanie
- 5 Nord-Amerika
Amérique du Nord
- 6 Süd-Amerika
Amérique du Sud

ち東大陸はアジア 1、ヨーロッパ 2、アフリカ 3、オセアニア 4、の四よりなり、西大陸は北アメリカ 5、及び南アメリカ 6、より成る。

地勢。東大陸は東西に、西大陸は南北に長し、山脈の主軸は此最長の方向に一致し、大陸の中央よりも一方に偏在す、(主軸には大抵これと並走する副軸ありて、其中間に平地を擁するを常とす)此現象は殊に西大陸に於て顯著なり、ロッキンギン、アンデス兩山系を總稱せるコーデラ山系は、西方の海岸に接近して南北に走り、從て地勢は其一方に急斜し、他の一方には緩斜して、廣大なる平原をなす。

地面の最高點は、二萬九千尺に達する、ヒマラヤ山系のエ

ヴェネスト峰なり、又海面以下に位する窪地の最たるは、死海の面にして、地中海面より低きこと一千三百尺なり、これを地面上最低の所とす。

海岸線は大抵北西及び北東の方向を取りて互に相平行す、故に陸は多く北に開き南に縮り、大なる半島は南方に向けて突出し、北半球に陸地多きを致せり、又海岸線は北半球の陸地に於てよく發達し、南半球に於てはこれに反す、これ其文化に遲速を生じたる一原因なりとす。

二、水界。

區劃。地球上の水を洋海と内陸の水とに分つ、洋海を分て大洋と副洋とに分つ、大洋 1、に五あり、太平洋 2、大西洋 3、

(世界地圖) 地理地圖 Ocean Pacific O. Atlantic O. (中)

- 1. Ocean
Océan
- 2. Grosser O.
O. Pacifique

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 5. Nord-Eismeer
O. Glacial Arctique | 3. Atlantischer O.
O. Atlantique |
| 6. Süd-Eismeer
O. Glacial Antarcctique | 4. Indischer O.
O. Indien |

印度洋⁴、北氷洋⁵、及び南氷洋⁶、これなり。
Indian O. Arctic O. Antarctic O.

副洋とは獨立の海流を有せず、又接近の大洋と絶縁するときは存在する能はざるものにして、地中海、日本海の如し、大洋は然らずして獨立に存在し、又獨立の海流を有せり、海流の著名なるものを赤道海流とす、有名なる大西洋の灣流及び太平洋の黒潮(日本海流)は、赤道海流の大陸東岸に衝突して生じたるものなり、海流の作用は主として地球上の氣候に影響を及ぼすにあり、

内陸の水、即ち河湖の巨大なるものは西大陸に多し、即ち世界第一の大河たるアマゾン河、第一の長流たるミシシッピ河及びシユーペリオル湖等の五大湖あり。

東大陸には無口湖頗る多く、何れも鹹湖なり、就中最も大なるは裏海にして、實に世界第一の大湖たり。

これ等河湖の水には往々内陸に始終して、全く内地灌域を有するものあり、アジアの内地灌域は最も廣大なり。

三、氣界。

溫度。地球上最寒の場所即ち寒極は、北アメリカの北部なる多島海中にあり、シベリアの内部も亦これに匹敵するの低溫度を有す、これに反して地球上最暖の所はサハラ沙漠より、アジア南部に連れる一帯の地なり、又北半球の溫帶に於ては、大陸の西岸は、東岸より溫度高くして且雨量多し、これ海流及び風の方向に因るなり。

雨量。沿海の地殊に大陸の西岸は大抵雨量多し、地球上雨少き地はサハラよりゴビに至る各大沙漠地にして、雨最も多き地は印度のカルカッタ四近地方なり、これ前者は山脉の障壁によりて濕潤なる海風を遮斷するに由り、後者は季候風の惠を蒙ること大なるが故なり。

風。太平洋、大西洋には貿易風發達せるも、印度洋は季候風の本地なり、アジアの地は多く此風に支配せらる、支那南海には大風、西印度諸島にはハリケインと稱する颶風屢起るを以て名あり、極四近には氣壓低くして西風常に吹くを見る。

要するに氣候は緯度に基づける氣候帶の外、地勢に従て大

Malayische Malaise Kaukasische Caucasique
Äthiopische Äthiopique

なる變化を受く、例へば洋海の影響を受くる所は夏冬温度の差少く、且雨量潤澤なれども、大陸の内部は正にこれに反せり、海の影響の有無により、氣候を大別して大陸性氣候と海洋性氣候との二種とす、中央アジアの如きは大陸性氣候の好例なり。

第三節。人文地理。

人種。世界の人口は凡そ十五億あり、而して皮膚、毛髮及び頭蓋骨の性質によりこれを五に大別す、即ち蒙古人種、アメリカ人種、ユーカシアン¹人種、エシオピア²人種及びマレイ³人種これなり、即ち左の如し。

蒙古人種。皮膚は黄色に、顔は廣くして扁平なり、顴骨

秀で、眼は小にして目皆舉る、頭髮は硬にして黒し、髯鬚は多からず、アジアの大部に住し、其數五億八千萬あり。

ヨーロッパ人種。皮膚は白皙にして、額は廣く、長く、顔は細長し、鼻は隆く、目皆舉らず、頭髮は鶯色を帯びて縮れ、髯鬚に富む、ヨーロッパの大部に住し、其數六億四千萬あり。

エシオピア人種。皮膚は黒色なり、鼻低くして太く、腮出で、唇厚し、額は扁平なり、頭髮は黒色にして短く且縮む、髯鬚少し、アフリカの大部に住し、其數一億九千萬あり。

マレイ人種。皮膚は鶯色なり、外容は蒙古人種の如し、頭蓋并に眼は白人種の如く、髯鬚少し、マレイ群島に住し、

其數五千萬あり。

アメリカ人種。皮膚は銅色なり、鼻隆く、顴骨聳へ、眼は長くして其眸黒色なり、頭髮は直にして黒色なり、髯鬚少し、アメリカの内部に住し、一千五百萬あり。

人口の數を以て云ふときは、所謂蒙古人種及びヨーロッパ人種最も多く、合して世界總人口の八割を占む。

人類は自然力を利用して自己の使役に供し、又能く自然の狀況に應化することを得るを以て、地球上全く其住居する所とならざるの地殆んどなし、然れども動植物と同じく氣候食物等自然の狀況によりて、其心身發達の上に大なる差異を生ずることを免れず、溫帶地方の人は、寒帶地方の人の

如く、衣食の爲めに心身の全力を奪はるゝに至らず、又熱帯地方の人の如く逸居するときには、其生を遂ぐることを能はざる代りに、勤勞して其業を勉むるものは、常に能くこれが報酬を得べし、故に人々奮發して諸種の業務に勉勵し、從て人文の進歩も他の二帯の人間に超絶するに至るものとす、これを以て、古より最も發達したるは、温帯の人種にして、蒙古人種は嘗て全世界を支配し、ヨーロッパ人種は近世最も盛大を極む、而してこれ等發達せる人種が、東半球の北部に起りたるは何故なるか、蓋し此陸地は最も廣大にして、且變化に富めるが故なり。

生業。人文發達の度に從て其人民の生業も、亦各々其類

を異にす。

(一) 其下級に位するものは、漁獵のみを以て其生業とするものなり。

(二) 其次に位するものは、游牧の野民にして、水草を逐ふて轉居し、天幕を以て家となす、アラビヤ人は多く此階級に屬す。

(三) 第三階級に至れば、民衆は一所に定住し、其食料は主としてこれを土地より仰ぐもの、即ち耕作の業を營むものこれなり、これに伴ふて牧畜、鑛業、手工業の發達をも促すに至り、耕作地の近傍に家屋を建築し、遂に村落をなし、又都市を成すに至る。

(四) 其初め各人の需用は衣、食、住の必需品にあれども、漸次實用品に加ふるに、便益品を以てするに至る、而して必需、便益兩種の物品共に自ら製造するを要し、又は他と交換を要するものあり、茲に於てか諸種の工業起り、貿易始まる。

(五) 最後に人民は其智心を満足せしむる爲め、文學、技藝、理學に従事するもの出づ。

國家。人類團練の最も自然に出で、且最も單純なるものは家族にあり、夫れより進て數多の村落を構へ、都邑を成すに至る、民衆にして相互に言語、風俗、習慣を同くするものは總稱してこれを民族と云ふ、一民族若くは數民族其國土

を有し、共に一の主宰者を戴きて完全なる獨立の團結をなすときは、始めて國家を形成す。

現今世界中に國を立つる民族其數甚だ多し、アジア洲には大陸の東岸に我大日本帝國あり、其對岸には支那(清)帝國、朝鮮(韓)帝國あり、支那の南にシヤム(暹)王國あり、ヨーロッパには國を成せる民族最も多く、就中イギリス、ドイツ、フランス、オーストリア、イタリー、ロシアの六國最も盛なり。

西大陸にて最も有名なるものを北アメリカの合衆國となす、其南にメキシコあり、南アメリカの諸國にはブラジル、アルジエンチーン、チリー、ペルー等の諸國あり。

專制君主制
立憲君主制
民主政

政躰。現今世界に行はるゝ所の重なる政躰二あり、君主政治及び民主政治これなり、君主政治とは君主上に在りて一國を統治するものこれなり、然れども其中亦自ら二種の區別あり、專制君主制及び立憲君主制これなり。

民主政とは國民の撰擧したる代議士、主として國政を料理するものにして、其政府の長官はこれを大統領と稱す。

各國政治上の便宜に依り、其領土を大小の管轄區に分劃するを例とす、中央政府の所在地はこれを首府と稱す、今其主要なるものを左に掲ぐ。

- 國名。 政躰。 首府。
- 日本。 立憲帝政。 東京。

支那。

專制帝政。

北京。共知政

朝鮮。

專制帝政。

漢城。

イギリス。

立憲帝政。

ロンドン。

フランス。

民主政。

パリ。

ロシア。

專制帝政。

セント、ペートルスブルグ。

ドイツ。

立憲帝政。

ベルリン。

オーストリア、ハンガリー。

立憲帝政。

ヴィエナ。

イタリー。

立憲王政。

ローマ。

スペイン。

立憲王政。

マドリット。

トルコ。

專制帝政。

コンスタンチノープル。

合衆國。

民主政。

ワシントン。

國語。國語は國民の特徴なり、世界中最も多數の民衆の使用する國語は、實に支那語凡四億人にして、其最も廣く世界の各部に行はるゝものはイギリス語(凡一億人)なり、世界の主なる貿易市場に於ては、イギリス語の通ぜざる所なし。宗教。今世界の主なる宗教を擧ぐれば。

一、佛教。釋迦の教旨にして、日本、支那、アジア東南部の人民これに信仰し、其教徒は實に全世界人口の三分一を占む。
二、婆羅門教。婆羅門を天地の主宰として信奉するものにして、印度の人民多くこれを信奉す。

三、基督教。耶穌基督の教旨にして、専らヨーロッパ、アメリカ大陸に行はる、舊教、新教、ギリシヤ教の三大別あり。

舊教、一名天主教は、ローマ法王これを管治し、ヨーロッパ南部の人民、南アメリカ等に行はる、信徒一億九千萬人あり。新教は今より凡そ四百年前、舊教より全く分離して、ローマ法王の管治を脱し、新に教義を定めたるものにして、ヨーロッパ中央部、北部の住民、合衆國、オーストラリアの人民これを信奉し、其數一億三千萬人あり。

ギリシヤ教はロシア皇帝を其管治者と仰ぐ所の基督教にして、ロシア及びバルカン半島の人民大概これに歸依す、其數八千萬あり。

四、回教。マホメットの教旨にして、中央及び西部アジアの諸國、トルコ、エジプト及びアフリカ北岸の人民これを信

奉ず、其數二億人あり。
産業。

天産物。 礦産は廣く地球の各部に播布し、特に山岳地方に多く存す、礦物の中、金、銀、銅、鐵、石炭、石油の如きは最も主要なるものとす、就中鐵及び石炭は、實業上及び軍事上、最も欠ぐ可らざるものなり。

鐵の産出は世界中イギリスを以て最多額とし、合衆國、ドイツこれに次ぐ、石炭の産出も亦イギリスを最多額とし、合衆國、ドイツこれに次ぐ、日本にも亦多量の産出あり、金は合衆國、ロシア、オーストラリア、南部アフリカ、銀は合衆國、メキシコ、銅は合衆國、スペイン等より産す、我國より

も亦多量に産出す、石油工業の最も盛大なるは合衆國、ベトナム、シベリア、アフリカ、南シシルヴァニア州にして、裏海の近傍も亦其産出に富む、寶石の隨一たる金剛石の産地は、ブラジルの内地及び南アフリカとす。

植物の生活は溫度及び水濕の多寡、并に土質の如何に依りて支配せらるゝものなり、熱帶地方の植物は其種類極めて多く、其形狀長大にして、花實美なり、又液汁に富む、而して極地に至るに従ひ植物の生活は漸々單純となり、其種類も亦極めて少なし。

世界中暖熱と水濕との最も潤澤なる地は、蓋し南アメリカ、アマゾン河の灌域に如くものなからん、從て植物

の生育も此地に於て殆んど其極度に達せり、温帯地方は植物の生育も亦寒熱帯の中庸を得、椰子樹は既に其跡を絶ち、檜、栗の如き落葉樹及び松、杉、檜等の松柏類これに代て森林を成す。

吾人の食料、衣料等に供するは即ち耕種植物にして、其最も貴重なるものを穀物とす、本邦支那の人は米を常食とし、ヨーロッパ、アメリカの人は小麥を常食とす、日本、印度、支那は有名なる米産地にして、ロシア及び合衆國は小麥を多く産す。

其他綿花、藍、珈琲、甘蔗及び胡椒、丁子等の香料物は熱帯地方の耕種植物にして、温帯地方には茶、桑、葡萄、林檎、亞麻、煙草

等を栽培す、ミシシッピ河の灌域は全く玉蜀黍、棉花の圃にして、熱帯の森林も亦珈琲、甘蔗の耕地と變じたる所多し。土地の高低は大に氣候の變化を來すを以て、熱帯地方の高山に在りては、山麓には熱帯の植物生育し、山腹に至れば温帯の落葉樹、松柏類繁茂し、遂に一萬五千尺以上の高度に至れば全く寒帯地方と同一にして、僅に蘚苔類の生長するのみ。

動物も亦植物の如く、極地より赤道に近くに從ひ、漸々其種類及び美麗の度を増加し、形状も亦巨大となる、象、獅子は熱帯地方の産なり、獨り海産動物の巨大なるもの、美なる毛皮を有するものは却て寒帯地方に多し、鯨、海馬、膾炙獸、臘虎

の如きこれなり。

東大陸、西大陸、オーストラリアは共に動物播布上自ら別區域をなす。

東大陸の動物は、西大陸に比すれば巨大にして勇猛なるを常とす、象、獅子、虎、河馬、猩々、孔雀、鷲、鷹の如き其特有産なり、西大陸には、アメリカ虎、大蝙蝠、樹懶及び「コンドル」鳥、蟒蛇等を産す、オーストラリアは有袋類と稱する下等の哺乳動物の特産地たり。

馬、牛、羊の如き人世有用の家畜は、人爲によりて各地に轉移せらるゝを以て、大に其播布の區域を擴張し、アメリカ、オーストラリアにては今や一大富源を成すに至れり。

羊毛の大産地はオーストラリア、アルジェンチーン、ロシア及び合衆國とす、養蠶の主産地は我國を初めとし、支那、イタリー等とす。

貿易。前述の如く國によりて天産物の種類に異同あり、産額に多少あり、これによりて有無相通ずるの貿易は、各國年々盛大を極め、イギリス國の如きは、明治三十年に於ては外國貿易額七十四億圓に達せり、茲に於て交通の機關益發達を致せり。

交通。航路、鐵道、郵便、電信の四者を以て現今世界交通の主なる機關とす。

世界航路の主なるものを擧ぐれば、北アメリカのサンフ

ランシス、ユ若くはヴァンクローヴァーより起り、横濱に至るの一線、オーストラリアに至るの一線、新大陸の西岸、各港に至るの一線あり、又香港より起り、横濱に至るの一線、オーストラリアに至るの一線、アジアの南岸を経てヨーロッパに至るの一線あり、イギリスのリヴァプール港より起り、一方はヨーロッパ大陸各港へ、一方は南北兩アメリカの各港へ、一方は喜望峯又はスエズ運河を経てアジア及びオーストラリアに至るの諸線あり、若しニカラガ運河落成の曉には、同運河は交通の一大要點として、スエズ運河と相對するの位置に立つべきなり。

現今航運の業に従事する世界の商船は總計四萬隻、二千

萬噸にして、イギリスは凡そ其半數を有し、合衆國、ドイツ、ノルウェイこれに次ぐ、而して汽船の噸數に於てはドイツは現今イギリスの次ぎに位す。

現今世界交通の大往還に依りて世界を一週せんとせば、横濱よりサンフランシスコに至り、北アメリカを横斷する鐵道によりて、大ニューヨークに至り、大ニューヨークより、イギリスのサウサンプトン港に至り、更にヨーロッパ大陸に打渡り、鐵道にてイタリーのプリンヂェシー港に至り、これよりスエズ及び印度を経て横濱に至るべし、日數凡そ六十日を要す、然れどもシベリア鐵道完成の日には、僅に三十日餘にして能く世界を一週するに至るべし。

鐵道。最近の時代に於て、人文の上に一大影響を與へたるものは鐵道なり、鐵道の布設最も普きはヨーロッパ諸國なり、北アメリカにはロッキーマン山系を横斷する所の連合太平洋鐵道、カナダ太平洋鐵道、南太平洋鐵道、北太平洋鐵道等ありて東西洋の間を貫通す、アジアには未だ各國の間を連接するものなしと雖ども、近時シベリア鐵道は起工中なり。

郵便。郵便の制度は其遞送の迅速にして、且區域の廣大なるに従て、其効用益々大となるを以て、明治七年スウィツル國ベルン府に各國の委員會合して、二十二箇國間の同盟成れり、我國も明治十年六月を以て其聯合に加盟したり、現今此聯合に同盟したるもの、諸殖民地を合するとき、實に

八十餘國ありと云ふ。

電信。電信は郵便と相須て交通の方便を最も完全ならしむるものにして、郵便と同じく又各國聯合の必要あり、現今萬國電信聯合に加盟したるもの總て四十一國あり、我國も明治十二年此同盟に加はりたり、今世界交通の主要なる電信線路を擧ぐるときは、

陸上線にはセントペートルスブルグより、シベリア大平洋沿岸(ウラジオストク)に達するシベリア線、北アメリカの東西兩岸に通ずる線路等あり。

海底線には東洋と西洋との聯絡線並にヨーロッパ、アメリカの間を連接する大西洋海底線あり、東西洋聯

絡線は東京、長崎、上海、香港より、シンガポールを経て、印度の東岸マドラスに通じ、更に其西岸ボンベイより紅海を経てエジプトのアレキサンドリアに達し、地中海線によりてマルセイユ港に達す、又長崎よりウラジオストク港に達する海底線あり、シベリア線に連接す。

大西洋海底線はイギリスより四線、フランスより一線あり、近時本邦及びアメリカの間に太平洋海底電線を架設するの計畫あり。

第二章。アジア

Asia

第一節。總論。

位置。アジアは東半球の北部を占め、ヨーロッパの東、アフリカの東北にあり。

境界。北は北氷洋に面し、南は印度洋に臨み、又オーストラリアに對し、東は太平洋を隔て、遙かに北アメリカに對し、西はウラル² 山脉、ウラル河、裏海、マニツチ³ 河、黒海⁴、地中海、によりてヨーロッパに境し、スエズ⁵ 運河を含める地峽及び紅海⁶ によりてアフリカに接す。

ユーカサス⁷ の地方は或はヨーロッパに算入するこ

7 Kaukasus
Caucase

5 Sues
Suez

6 Rothes M.
M. Rouge

3 Manytch
Manytch

4 Schwarzes M.
M. Noire

1 Asien
Asie

2 Ural
Oural

(カサス)
Caucasus

(三十一)

どあり、或はこれを二分して、ユーカサス山脉以北をヨーロッパに入れ、以南をアジアに入るゝことあり、然れどもユーカサスは全くアジアに入るゝを以て正當とす。

廣袤。東西の長さ最も大なる所二千五百餘里、南北の幅最も廣き所二千三百餘里あり、面積凡そ二百九十萬方里にして、地球上陸地全軀の三分の一を占む。

地勢。アジア大陸の地勢を知らんとせば先づパミール高原に目を注がんことを要す、世界屋脊の通稱あるこの高原の位置は、アジアの中央より少しく南に偏し、印度の北にあり、此パミール高原より高大なる山脉、東北、東、東南、南、西の五方に走る、其東北に向ふものは、天山山系となり、阿爾泰²

- 1. Pamir
Pamir
- 2. Altai
Altai

高原に目を注がんことを要す、世界屋脊の通稱あるこの高原の位置は、アジアの中央より少しく南に偏し、印度の北にあり、此パミール高原より高大なる山脉、東北、東、東南、南、西の五方に走る、其東北に向ふものは、天山山系となり、阿爾泰²

- 1. Jablonoi
Jablonoi
- 2. Stanovoi
Stanovoi

山系に連り、更にヤプロノイ¹、スタンゾオイ² 兩山脉に連りて、アジアの東北隅に至る。

又パミール高原より東に向ふものは、崑崙³ 山系となり、二分して、一は祁連山、陰山等の諸山脉を起し、興安嶺により

- 3. Kuen-lun
Kouen-lun

て、彼ヤプロノイ山脉に連る、一は支那本部の地に入り、南北の二に分れ、楊子江の南北に連亘し、其脉延て本部の地體に連る、其南嶺の西部、西藏に接する邊は、山脉南北に並走して、横斷山脉の名あり。

横斷山脉の名あり。

パミール高原より東南に走るものは、世界上第一の大山

脉なるヒマラヤ⁴ 山系にして、其東部は横斷山脉に接す、又

- 4. Himalaja
Himalaya
- 5. Suliman
Soliman

全高原より東南に走るものは、サリヤン⁵ 山脉なり、西方に

- 1. Hindukusch
Indou-Kouch
- 2. Elburs
Elbourz
- 3. Kleinasien
Asie Mineure
- 4. Kaukasus
Caucase
- 5. Sibirien
Sibérie
- 6. Gobi
Gobi

走るものはヒンヅークーシュー¹ 山脉にして、エルブールズ² 山脉に連り、小アジア³ の西端に終り、別にユーカサス⁴ 山脉は裏海と黒海との間に横はりて並走す。斯の如くバミール高原より山脉支出するを以て、アジアの地勢自ら五部に分る、即ち北部アジア、中央アジア、東部アジア、南部アジア、及び西部アジアこれなり。北部アジア。ヤプロノイ及びヒンヅークーシュー兩山脉以北の地にして、シペリア⁵ の大部をなし、地勢低平なる原野多し。

中央アジア。阿爾泰山系とヒマラヤ山系との間は、中央アジアの高原にして、ゴビ⁶ 沙漠は其北部に、西藏高原は其

1. Tarim
Tarim

南部にありて、中間に塔里木¹ 河の低地を挟む。中央アジアの東境は、即ち興安嶺より横斷山脉を含める、支那本部の西部によりてなる、これより以東は即ち東部アジアに屬す。

東部アジア。此區域は本邦、朝鮮、滿洲、支那本部を包含し、山地多きも、其中央に中原即ち支那北部の大平原ありて、黄河、揚子江下流區域の近傍に跨る。

2. Dekan
Dékan

南部アジア。ヒマラヤ山系以南、サリマン山系以東を含み、印度半島南部にデツカン² 高原及びこれとヒマラヤ山系との間に印度大平原あり。

西部アジア。サリマン山脉以西、ヒンヅークーシュー山脉

- 1. Iran
Iran
- 2. Mesopotamien
Mesopotamie

以南に當れる地方は、地勢多くは高原にしてイラン¹の高
原アラビアの高原あり、又メソポタミア²の平原あり。
爰に中央アジアと稱したるは、從來地理學上の中央アジ
アに略該當し、ロシア行政上の一區分たる中央アジアとは
異なれり。

- 3. Ochotsker
Okhotsk

沿岸 アジアは海岸線の屈曲に乏しからずと雖も、これ
をヨーロッパに比すれば割合に短し、其海岸線全長の五分
の一は、北氷洋及びオホツク³海に濱し、一年間氷結久しき
に亘り、海運の利を缺くこと大なり、加ふるに半島は凡て大
なるもののみにして、其海岸線は出入に乏しく、ヨーロッパ
に於けると趣を異にせり。

- 1. Korea
Corée
- 2. Kamtschatka
Kamtchatka
- 3. Indo-China
Indo-Chine
- 4. Indien
Inde
- 5. Arabien
Arabie
- 6. Sumatra
Sumatra
- 7. Java
Java
- 8. Borneo
Bornéo

半島の突出せるもの、黒海と地中海との間に小アジアの
半島あり、又太平洋にあるは朝鮮¹及びカムチャツカ²の
二半島にして、印度洋に突出せる半島三あり、印度支那³半
島、印度⁴半島及びアラビア⁵半島これなり。
島嶼は其數甚た多く、面積も亦アジア全軀の百分の六を
占め、就中アジアの南東部より、北東部に亘りて、群島相連り、
一大火山脈を其中に通ず、即ち印度の南東部にスマトラ⁶
ジャヴァ⁷ボルネオ⁸フィリッピン⁹を含めるマレー¹⁰
群島ありて支那の南方にある支那海を圍み本邦の地軀を
なせる群島に連り、遂に北アメリカのアリューシアン¹¹群
島に連る、此の島脈の外シベリアの東部に樺太¹²島あり、朝

- 9. Philippinen
Philippines
- 10. Malay
Malai

- 11. Aläuten
Aléoutiennes
- 12. Sachalin
Sakhaline

- 13. Quelpart
Quelpart
- 14. Ceylon
Ceylan

鮮の南部に濟州島¹³あり、支那の南部に瓊洲島あり、印度半島の南部にセイロン¹⁴島あり、これ等を有名なるものとす。かく多くの島嶼及半島あるが故に、これによりて圍繞せられ、數多の海灣、アジア沿岸に存在するを見る、其北氷洋に面する區域は、全軀に於て屈曲に乏し、北氷洋よりチユクチ半島を越ゆれば、太平洋の沿岸となる、其カムチャツカ半島の西方は、オコツク海深く入り込み、其西側には樺太島あり、樺太島と本陸との間なる韃靼海峽を過ぎ、日本海を南下し、朝鮮海峽を過ぐれば、黃海の水、西北に灣入して渤海をなし、山東及び遼東の二半島、其口を扼す、更に支那の海岸に沿ふて南下すれば、其揚子江以南は東海の區域に屬す、尙進ん

- 1. Tong-king
Tonkin
- 2. Siam
Siam
- 3. Singapur
Singapour
- 4. Wladiwostok
Vladivostok
- 5. Schang-hai
Chang-hai
- 6. Hong-kong
Hong-kong
- 7. Bengalen
Bengale
- 8. Persischer
Persique

で台灣海峽を下れば、これより南海一名支那海に入る、南海は西北に向てトンキン¹及びシヤム²の二灣をなす、支那海を南西に進み、マレー半島の南端に達すれば、此所正に印度洋との境にして、シンガポール³の要港あり、以上述べたる太平洋の岸には、オコツク海を除くの外、良港に乏しからず、就中ウラジオスドツク⁴釜山⁵上海⁵香港⁶シンガポール⁷最も名あり。印度洋區域は大なる灣、大なる半島あれども、海岸線出入に乏しく、隨て其長さ大ならず、印度半島は此洋の北部を二分し、東をベンガル⁷灣とし、西をアラビア海とす、アラビア半島は又東西に狹長なる灣を有す、東はヘルシア⁸灣にし

- 1. Oman Oman
- 2. Aden Aden
- 3. Colombo Colombo
- 4. Bombay Bombay
- 5. Archipel Archipel
- 6. Marmara Marmara
- 7. Bosphorus Bosphore
- 8. Asiatische Tuerkei Turquie d'Asie

て、此灣とアラビヤ海と通ずる所をオマーン^{Oman} 1 灣と云ひ西は紅海にして、此海と印度洋と通ずる所をアデン^{Aden} 2 灣と云ふ、印度洋にも亦良港なしとせず、就中ユロンボ^{Colombo} 3、ボンベイ^{Bombay} 4、アデン最も名あり。

紅海を過ぎ、アフリカに屬するスエズ運河を過ぐれば、地中海に入る、此海に沿ひたるアジア沿岸の西方には、ヨーロッパに屬する群島羅列して、多島海^{Archipelago} 5 の稱あり、これよりマルモラ^{Marmora} 6 海に入り、ボスフォラス^{Bosphorus} 7 海峡を過ぐれば、黒海に入る、アジアトルコ^{Turkey in Asia} 8 の黒海沿岸は區域も短く、極めて出入に乏しく、良港稀なりとす。

水系 アジアの河流に就ては、三個の特色あり、一は廣大なる内地灌域を有すること、二は數多の雙子河を有すること、三は大陸の中心より諸方に流出することこれなり。

- 1. Ob Obi
- 2. Jenissei Jenisséi
- 3. Lena Léna
- 4. Amoor Amour
- 5. Hoang-ho Hoang-ho
- 6. Jang-tse-kiang Yang-tsé-kiang
- 7. Saluen Salouen
- 8. Irawady Iraouadi

斜面區域に、オビ^{Obi} 1、エニセイ^{Jenissei} 2、レナ^{Lena} 3 の三河あり、太平洋の斜面區域に、黒龍江^{Amur} 4、黄河^{Hoang-ho} 5、揚子江^{Yang-tse-kiang} 6、珠江の四河あり、印度洋の斜面區域に、サルウィン^{Salwin} 7、イラワデー^{Irawadi} 8、ブラマプー^{Brahmaputra} 9、ガンダス^{Ganges} 10、インダス^{Indus} 11、シヤテル^{Shatel-Arab} 12 の六河あり。

内地灌域の面積は、殆んどアジア全面積の四分の一を占む、其主要なる河は、ウラル^{Ural} 13 河、シルダリア^{Sir Daria} 14 河、ムムダリア^{Annu Daria} 15 河、伊犁^{Tarim} 16 河、塔里木^{Tarim} 17 河等なり。

- 9. Brahmaputra
Brahmapoutre
- 10. Ganges
Gange

- 11. Indus
Indus
- 12. Schat-el-Arab
Chat-el-Arab

- 13. Ural
Oural
- 14. Sir Darja
Syr Daria

アジア雙子河の例を擧ぐれば、オビとエニセイ、黄河と揚子江、ブラマプートラとガンヂス、合して一大三角洲をなす、チグリス¹⁸とユーフレチス¹⁹（合してシヤテルアラフ河となる）、サルウインとイラワデー、シルダリアとアムダリアこれなり。

湖沼。アジアには鹹湖の大なるもの多し、ユーラシア²⁰大陸（アジアとヨーロッパを合したる大陸に下せる名なり）の中間にあるは裏海にして、面積我國より少しく大なり、且其海面は地中海面の下にあり、これに次ぐをアラル²¹海、及ハルカッシユ²²兩湖とす、其他支那の青海²³、及び羅布湖²⁴は共に名あり、以上は何れも内地灌域に屬せり、アジアには淡

- 15. Amu Darja
Amou Daria
- 16. Ili
Ili
- 17. Tarim
Tarim
- 18. Tigris
Tigre
- 19. Euphrat.
Euphrate
- 20. Eurasien
Eurasie
- 21. Aral
Aral
- 22. Balchasch
Balkach

水湖の大なるもの少し、其中シベリアのバイカル²⁵湖、支那本部の洞庭及び鄱陽の二湖大なりとす。

氣候。アジア大陸の大部は、緯度の上より云ふときは、温帯に位すと雖ども、其氣候は寒暑の差甚しくして、所謂大陸性氣候を有す、即ち空氣の乾燥と、溫度の劇變とはこれが特性にして、パミール高原、ゴビの沙漠、西藏の高原、何れも然らざるはなし、南西の高原も亦乾燥なる氣候を有す、即ちアラビア及びヘルシアの高原これなり。

北部の太平洋即ちシベリアの地も、寒暑共に烈しく、其最北部は地球上最寒の地の一にして、即ち寒極なり、地面下數百尺まで永久に凍結し、盛夏の候と雖ども、其表面融解する

に過ぎず。

南部アジアの大部及び西部アジア沿岸の地は、熱帶性氣候を有し、特に印度半島の一部、カルカッタ^{Calcutta} 26 四近は、地球上雨量最も多き所にして、其北部なる中央アジアと正反對なり。

西部アジアに屬する小アジアの地は、氣候頗る溫和なり、これ溫帶に位せると、海岸の影響あるとによる、東部アジアの氣候は一部大陸性なるも、其他は溫和にして、海洋性氣候發達し、特に本邦中部の氣候を以て最も良好なりとす、然れども北アメリカ及びヨーロッパ西岸に位する同緯度の地に比しては、溫度遙に低しとす。

25. Baikal
Baikal
26. Kalkutta
Calcutta

23. Koko-Nor
Kou-Kou-Noor
24. Lob Nor
Lob-Noor

アジアは氣候風の能く發達せる所なり、氣候風交代の期節には、颶風起るを常とす、支那海にてはこれを大風と云ふ。海流の東北ペーリング海峡より流れ來る極流は、其海底淺きと、海口狹きとにより、著しきことなしと雖ども、ライリツピン群島より東北に向へる、日本海流即ち黒潮は、アジアの東岸を洗ひて、遠く北アメリカの西岸を衝くものと、ペーリング海峡に入るものどあり、印度洋の赤道海流は、東より西に向つて流るゝも、氣候風のアジア内地に向ふときは、絶えて、其跡なし。

住民。アジアは凡ての人種を包括し、黒人種及びマレー人種は南部アジアの群島に多く、所謂ユーカシアン人種は

西部アジアの大部及び印度平原に多く、所謂蒙古人種は中央アジア及び東部アジアに多し、此廣義の蒙古人種の主なるものに、大和民族、朝鮮種、狹義の支那種、即ち漢種、滿洲種、西藏種、トルコ種等あり、所謂ユーシヤカン人種に屬するものには、ヒンヅ種、ベルシヤ種、アラビヤ種等あり。

人口凡そ八億三千萬にして世界人口の凡そ半以上を占む、此中バミール高原、北氷洋岸なるシベリアの凍土帶、ゴビの沙漠は殆んど無人の境なるに反して、ガンヂス、揚子江、黄河の冲積平原は世界上人口最も稠密なる地方に屬す。

文明。漁獵の民、遊牧の民、農耕の民なる三階級は、文明の程度を示す標準として、地理上常にこれを用ふる所なり。大

躰に就てこれを言ふときは、漁獵の民は、北氷洋岸より北緯六十五度に至る、北帯の區域を占め、遊牧の民は、これより以南北緯三十五度に至る中央の區域と、アラビヤ及びイランの地を占有し、其他の印度、日本、支那、小アジアに於ては、農耕を業とする定住の民住居す。

教育。は我國を除きては、實に云ふに足らざるなり。

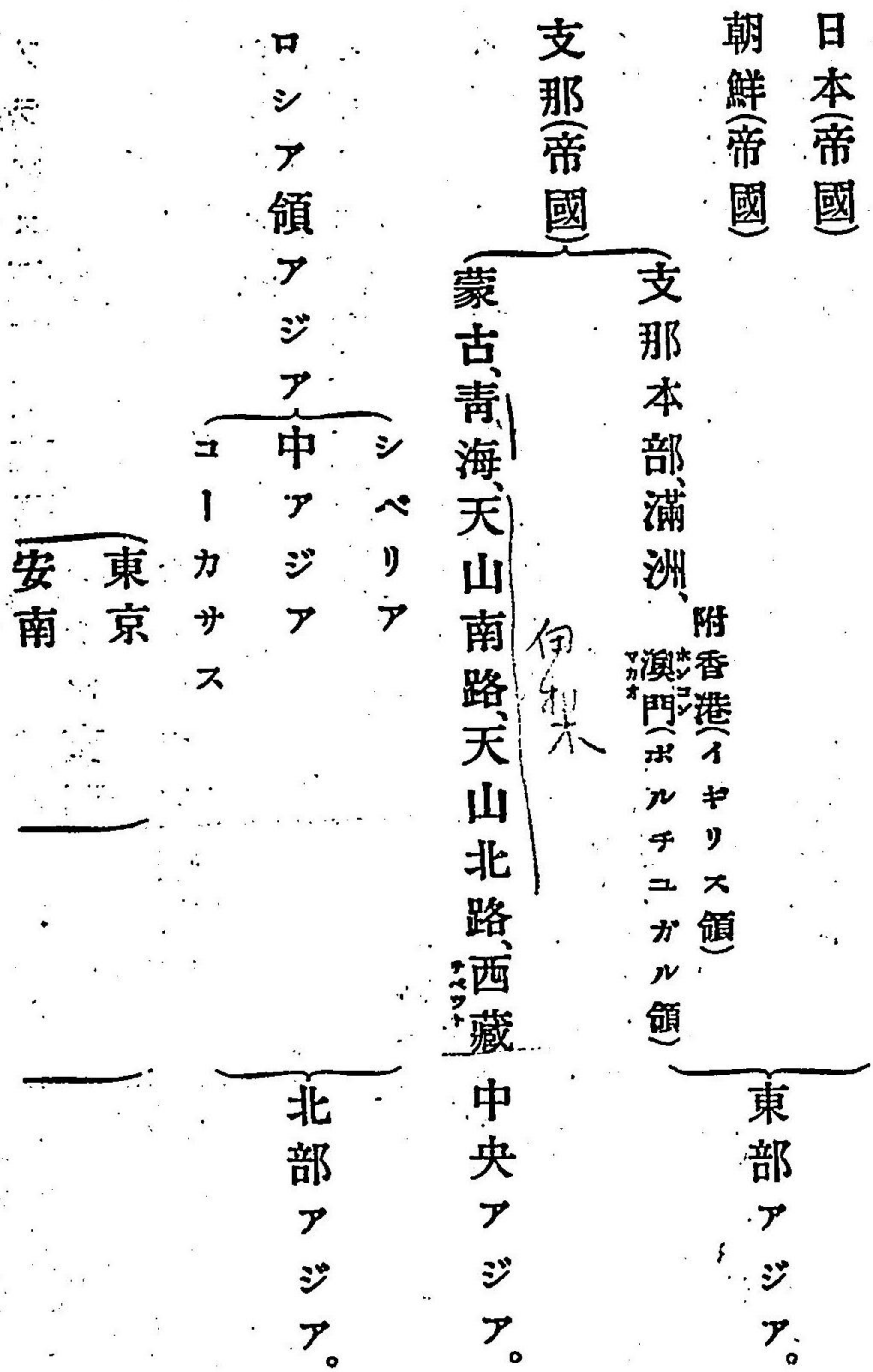
宗教。アジアは宗教に於ても殆んど凡てを包括し、主要なる四大宗教、基督教、佛教、波羅門教、回教は皆起源を此大陸に發す、隨てアジア人民の信奉する宗教は一にして足らず、これを略言すれば、東部アジアは佛教の國にして、西部アジアは回教の國なり、北部アジアは基督教及びシヤマン教徒

多く、南部アジアは波羅門教及び回教徒多し、而して中央アジアには喇嘛教、回教、シヤマン教徒等を多しとす、其他西藏には喇嘛教あり、ベルシアには拜火教行はる。

邦制。地勢上より見れば、ヨーロッパはユーラシア大陸の一半島にて、アジアの附屬たるに過ぎずと雖ども、政治上より見ればこれに反するの勢あり、我國及び支那を除き、朝鮮の如き、シヤム、ロの如き、ベルシアの如き、國勢萎微として振はず、アフガニスタンの如き、チポール^{Nepal}の如き、ブータン^{Bhutan}の如き、名は獨立國なりと雖ども、其實イギリス帝國の制肘を受け、北部アジアは全くロシアの領地に歸し、南部アジアは殆んどイギリス及びフランスの領地となり了れり、今

- 1. Nepal
Népaul
- 2. Bhutan
Boutan

邦制によりアジアを細別すれば左の如し。



フランス領印度支那

カンボジア
ラオス
ベトナム
ミャンマー

後印度

シヤムロ(王國)

イギリス領海峽殖民地

イギリス領印度

ビルマ
印度半島

附

セイロン

フランス領印度

ポルチユガル領印度

前印度

南部アジア。

チポール(酋長國)

ブータン(酋長國)

イギリス領

オランダ領マレー群島

ネパール領

ベルチスタン

アフガニスタン(酋長國)イラン

ペルシア(王國)

アラビア

アジアトルコ附サイラス(イギリス領)

産業。アジアは産物に富むと雖ども富源は未だ十分に

西部アジア。

開發せられざるものゝ如し、シベリア南部、支那東南部及び印度平原等は農業を以て聞え、シベリアの南部及び支那の南部は共に林産を以て聞え、ベーリング海峡四近は水産を以て著はれ、阿爾泰、ウラル、崑崙の諸山脉は貴金屬及び寶石の礦産を以て名高し、斯の如く凡ての物産饒多にして、就中印度南部の米(南京米)、ウラルの貴金屬、^{Baku}バークーの石油、印度の綿、本邦、支那、印度の茶、本邦及び支那の蠶絲、南アジアの砂糖、北アジアの毛皮は皆世界の市場に影響を及ぼすの物産なり、工業は未だ盛ならずと雖ども、近來印度及び本邦に隆起せる製造事業は、ヨーロッパ諸國の勁敵たるを示せり、貿易も非常に盛大を極め、横濱、上海、香港、カルカッタ、ボンベイ

Baku
Bakou

1. St. Petersburg
St. Pétersbourg
2. Aden
Aden

は各其地方貿易の中心となれり。

交通。アジアには大陸往還の街道としては、シベリアの郵便線路あるのみ、若しシベリア鐵道完成の日に至らば、アジアを東西に貫ける街道となりて、ウラジオストツクよりセントペートルスブルグ¹に至るに、十日餘にして至るを得べし、又海上に於ける世界の往還としては、地中海よりスエズ運河に入り、紅海を通じ、印度洋を横ぎり、支那海を経て太平洋を渡り、以て北アメリカに至るの線ありて、^{Aden}アデン、²コロンボ、シンガポール、香港、横濱は寄泊の要港なり、近時日本郵船會社も此航路を開始し、毎二週一回の發着をなせり、若し夫れアジア内地の交通に至りては、毫も未だ開けず、こ

れ沙漠あり、高臺あり、山地には深き谷あり、入り込むべからざる森林ありて、障害をなすが故なり、これを以て内地は専ら馬又は駱駝に依りて運搬の用をなし、北部にては馴鹿、最北部にては犬を用ひ、橇を引かしむ。

然れどもアジアの水利は幸に稍大にして、大河の下流は如何なる大船をも碇泊せしむるに足るもの頗る多し。

鐵道は前記シベリア鐵道の外、此支線たる東清鐵道あり、前者は一部落成し、後者は未だ着手せず、又トランスカスピアン鐵道ありて、其東端はバミール高原の西邊に延長せり、これ等は皆ロシア政府の手に依りて成りしものなり、又印度には殆んど二萬哩、本邦には三千餘哩、アジアトルコには

- | | | |
|-----------------------|-------------------------------|----------------------------|
| 5. Teheran
Téhéran | 3. Port Darwin
Port Darwin | 1. Madras
Madras |
| | 4. Odessa
Odessa | 2. Australien
Australie |

千五百哩の鐵道已に成れり、要するに現今アジアの鐵道はこれをヨーロッパに比して尙微々たり。

電信は道路及び鐵道に比して遙に進歩し、ロシアのセントペートルスブルグよりウラジオストツクに通じ、又西トルケスマンを経て北京及び上海に達し、トルコのコンスタンチノーブルより、ボンベイ、マドラス¹、シンガポール、サイゴン、香港、長崎に通じ、又シンガポールよりジャヴァ及びオーストラリア²のポートダルウィン³に通じ、又ロシアのオデッサ⁴よりコーカサスを経、ヘルシアのテヘラン⁵を経てボンベイに至る線あり、其他本邦、支那及び印度の内地には、各市邑間に電線を通ずるを以て、内外共に通信の便を

欠ぐことなし、近時北アメリカ及び本邦間に海底電線を敷設するの計畫あり、此事業にして成効するの日に至らば、アジアと他大陸との通信は一層便益を覺ゆるに至るべし。

アジアは世界第一の高山を有す。

アジアは世界第一の高原を有す。

アジアは世界第一の平原を有す。

アジアは世界第一の半島を有す。

最大の鹹湖あり(裏海)。

最暖の海水あり(紅海)。

最低の窪地あり。

Sahara
Sahara

アジア西南部の高温度は、熱の赤道たるサハラ沙漠に匹敵す。
Sahara

アジア北部の低温度は、世界の寒極たる北アメリカ多島海に伯仲す。

地球上最大なる無雨區域はアジアの内部に在り。

地球上雨量最多の地はアジアの南部に在り。

人口最も多き大陸なり。

人種最も多き大陸にして、主要なる人種はアジアを起源地とす。

宗教最も多くして、主要なる大宗教はアジアを起源地とす。

最古の邦國を有する大陸なり。

(五十八)

世界第一の大運河は今より千三百年前に於てアジアに在り。

世界第一の大鐵道は明治三十八年に於てアジアに在り。要するにアジアは大陸中の大陸にして、凡ての點に於て最大なる大陸なり。

第二節。北アジア。

シベリア

Siberia

總論

位置。

アジアの北部を占め、支那、朝鮮の北方に位せり。

Alaska
Alaska

境界。北は北氷洋に面し、西はウラル山脉によりて、ロシアに接し、東はベーリング海峡を隔て、北アメリカのアラスカ²に對し、又オホツク海、日本海に臨みて本邦に對し、南は圖們江を以て朝鮮に接し、黒龍江等を以て滿洲に接し、阿爾泰山系によりて蒙古に接し、又ロシア領中アジアに接す。面積及び幅員。南北九百里、東西千七百里、面積は八十一萬餘方里にして、凡そ我國の三十倍に當れり。

區劃。行政上東部シベリア、西部シベリア、黒龍江地方に三大別し、更に八省(州)に分ち、別に樺太島を黒龍江地方に附す。地勢。地勢氣候の差異により、凍土帶、森林帶、曠野帶、山嶽帶の四部に區別す。

(イ)凍土帯。凍土帯は北緯六十五度以北一帯の地域にして、地勢低平なり、海岸に近き所にては、地下六百六十尺に至るまで凍結す、夏季に至れば、凍土の外表面僅かに二尺許融解して廣大なる澤地をなす、冬季寒氣非常にして、零下五十五度に下り、人の生活に堪へず。

(ロ)森林帯。森林帯は北緯十五度以南、五十五度に亘れる森林地帯を包括し、喬木密生して餘地少く、猛獸其間に徘徊す、夏季は炎熱甚しく、無数の蚊虻發生して、猛獸と雖どもこれに堪ふる能はず。

(ハ)曠野帯。曠野帯は森林帯以南一帯の平地を總稱す、地味沃饒、氣候溫和にして、農産に富む、然れども夏季は瘴氣多

きを以て、人口未だ稠密ならず。

(三)山嶽帯。シベリアの西部、東部及び南部に綿亘するウラル、スタノヴォイ¹等諸山脉地方の總稱なり、これを五部に分割す。

海岸。北氷洋岸には、オビ灣深く灣入し、オビ河は此灣内に注ぐ、これより東北にはセヴェロ²岬あり、これシベリア全土及びアジア大陸本地の極北なり、之れより南南東にレナ河口の三角洲あり、新シベリア群島其前に横はる、これより以東は屈曲極めて少く、其極點は西經百七十度なる東岬にして、ベーリング海峡の西邊なり。

太平洋沿岸は海獸昆布魚類の産出を以て、地球上多數の

- 1. Kamtschatka
Kamtschatka
- 2. Lopatka
Lopatka
- 3. Okhotsker
Okhotsk
- 4. Nikolajewsk
Nikolajevsk
- 5. Tartarische
Tarakai
- 6. Korsakowsk
Korsakowa
- 7. Peter der
Grosse
Pierre le
Grand

漁場として世に知らる、カムチャツカ¹ 半島東北に在りて南端をロバトカ² 岬とす、千島海峡を隔て、我千島列島の東北端シユムシユ島に對す、此海峡の西はオユツク³ 海なり、黒龍江の河口なるニコライスク⁴ 港は、對岸に樺太島ありて、韃靼⁵ 海峡の北門を扼し、全島の南にユルサユーフ⁶ 港あり、全島の南端は宗谷海峡を隔て、我北海道宗谷と相對す、朝鮮の國境に近く、ペートル大帝⁷ 灣あり、灣頭にウラジオストツクの良港を有す、
Peter the Great

水系。シベリアの河流は大抵南方の高地に發して北流す、而して支流の大なるもの多きが故に、少しく人力を加ふれば、ウラル山脉より太平洋に至るまで、又南方の高地より

- 1. Ob
Obi
- 2. Tobol
Tobol
- 3. Irtisch
Irtych
- 4. Tobolsk
Tobolsk

北氷洋に至るまで、殆んど間斷なく、水運の便を開き得べし、これによりて、シベリア全土は蛛網の如く河流貫通し、舟楫を通ずべき長さは、凡そ一萬二千三百里に垂んとす、然るに冬季久しく氷結し、黒龍江の如きも、半年間舟楫を通せざるは惜むべし。

シベリアの河流は、北氷洋に入るものを、オビ、エニセイ、レナの諸河とし、太平洋に入るものを黒龍江とす。

オビ¹ 河はシベリア最大の河なり、トボル² イルチツシ³ の諸支流、トボルスク⁴ 府近傍に相會して、オビ河の本流に合す、オビ灣に近く、大小二派に分れ、海に注ぐ、全長凡そ千四百里、漁業甚だ盛なり。

- 1. Jenissei
Jenissei
- 2. Lena
Lena

エニセイ¹河の二源は、共に北部蒙古に發す、北流してオビ灣の東にある一灣に入る、長さ四百餘里、シベリア最長の河なり、オビ河とエニセイ河とは雙子河をなす。
レナ²河はバイカル湖の北西に當れる谿間に發し、北流して河口七派に分れ、巨大なる三角洲を作りて海に入る、全長千二百里。

- 3. Sungari
Sungari
- 4. Ussuri
Oussouri

黒龍江の大部は交通國防上共に最も緊要なり、北部蒙古に發し、滿州との境をなし、松花江³及び烏蘇里⁴の二支流を合せて北東に流れ、ニコライスクに於て、韃靼海峽の北門に注ぐ、全長一千二百里、吃水五尺の汽船は、江口より八百餘里の上流に至るを得べし。

- 1. Baikal
Baikal

- 2. Slav
Slave
- 3. Schamanismus
Chamanisme

湖水。バイカル¹及び興凱の兩湖稍大なり、バイカル湖はアジア淡水湖中の最大なるものなり。
氣候。シベリアの氣候は大陸性にして、南は山脉連亘し、溫暖なる南風を遮り、北は一面打開けて、北氷洋より吹來る寒風を防ぐものなきを以て、全緯度の他大陸に比して、平均溫度頗る低し。

住民。人口凡そ六百萬、面積に比し非常に稀少なり、其土人は七十萬人に過ぎずして、今や大抵絶滅に赴かんとす、其他は大抵スラーヴ²種なり。
宗教。宗教は人種に依りて各異れり、其主なるものは基督教にして「シヤマン」³教これに次ぎ、佛教又これに次ぐ。

(1) Baikal
Baikal

(2) Slav
Slave

(3) Schamanismus
Chamanisme

- 1. Tungus
Toungouse
- 2. Jakut
Iakoute

風習。トングス¹人は忍耐力に富み快活なり、「ヤクト」²人の商業に敏活なることは、シベリアのジユウ³人なる稱あるにて、これを知るべし。

教育。教育は日に進み、中學校及び圖書館の設、次第に完備し、トムスク³府に大學の設立あり。

政治。行政管區は左の如し。

管 區

東部シベリア總督管區
 エニセイスク省
 イルクーツク省
 ヤクーツク州

全總督府所在地……………イルクーツク府

沿黑龍江總督管區

トランスバイカリア州
 黑龍江州
 沿海州
 樺太島

全總督府所在地……………ハバロフカ府

内務省直轄管區

トボルスク省
 トムスク省

軍備。シベリアはロシア領中アジアの一部を加へて、三軍管の區域をなす、即ちオムスク軍管、イルクーツク軍管、及び沿黑龍江軍管にして、イルクーツク及び沿黑龍江の二軍管は、前に述べたる行政區域に一致し、オムスク軍管はオム

スコトボルスク二州に加ふるに、中アジアの一部を以てす、
コサツク兵は屯田の制にして、最も驍勇と稱す。

海軍はウラジオストツクに鎮守府を置き、別にシベリア
海兵團を設く、而して太平洋沿岸の防備として太平洋艦隊
あり。

産業。氣候峻酷なれども、地味肥沃にして、農産に富み、又
牧畜盛なり、且つ山林鬱蒼として大木多し、天産物として有
名なるは、鑛物及び獸皮なり、而して太平洋の沿岸は海豚、海
馬、鯨等の海獸頗る多く、世界三大漁場の一として、世に知ら
る、要するにシベリアの産業は將來頗る有望なりとす。

北部には馴鹿及び犬を飼養す、二者共に交通上極めて必

要なるものなり、古代の巨象(Mammoth)の遺骸北部に現る
、こと多く、爲に數多の象牙を出す。

鑛物も頗る多く、就中阿爾泰山の金、銀、及び黒龍江水域の砂
金最も名あり、石炭採掘の業未だ發達せず。

交通。道路は官道及び支道の別あり、官道の驛には馬車
及び橋の設あり、橋は地方により馬、犬又は馴鹿を使用す、支
道の驛も車馬を通ずる所は必ず其設あり、最も重要な郵
便線路は、第一ウラジオストツクより、イルクーツクを経て、
チユトメン²に至る官道にして、長さ凡二千里に達す、又キ
チメン¹より北京に至る郵便線路は、凡そ四百里ありて、急行
にても十日を要し、通常一ヶ月を費す。

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------------------|
| 5. Tsitsikar
Tsitsikar | 3. Blagowjeschtschensk
Blagovietchensk | 1. Tscheljabinsk
Tcheliabinsk |
| 6. Ninguta
Ningouta | 4. Chabarowka
Khabarovka | 2. Strjetensk
Strietensk |

有名なるシベリア鐵道は、西はロシアのチエリアピンスク
 1より起り、オムスク府を經、オビ河を越え、^{Tchelyabinsk}トムスク府に至り、これよりイルクーツク府を經、バイカル湖の南岸に沿ひ、ストレテンスク²府に至り、ブラゴヴェスチエンスク³府を經、^{Stretensk}ハバロフカ⁴府に至り、これより烏蘇里河の右岸に沿ひ、ウラジオストツクに至る、全長殆んど五千哩、其既に敷設したる部一分、千四百哩に達し、來る明治三十八年を以て完成すと云ふ、落成の日はウラジオストツクより、セントペートルスブルグ府に至るに、凡そ十日間にして達すべし。

シベリア鐵道のネ⁰ストレテンスク府より分岐し、滿州の齊⁰ハ⁰ハ⁰爾⁵を經、寧古塔⁶を過ぎて、ウラジオストツクに達す

ハ⁰シ⁰哈⁰爾⁵を經、寧古塔⁶を過ぎて、ウラジオストツクに達す

ハ⁰シ⁰哈⁰爾⁵を經、寧古塔⁶を過ぎて、ウラジオストツクに達す

ハ⁰シ⁰哈⁰爾⁵を經、寧古塔⁶を過ぎて、ウラジオストツクに達す

る線路は、有名なる露清鐵道或は東清鐵道と稱するものにして、其全長殆んど一千三百哩の中、凡そ一千哩は支那の境域に屬す。

郵便は前に述べたる線路に依り、主要なる都府を連絡し、電線も亦一般に延長し、樺太島及び本邦長崎へは、海底電線によりて連接せり。

地方誌。

トボルスク¹省。トボルスク府はトボル河とイルチツシユ河との會點に位し、航通の利に富む。

トムスク²省。首府をトムスク府と云ふ、大學校あり、シベリア中第一の大都なり。

1. Tobolsk
Tobolsk
2. Tomsk
Tomsk

(ラッパ) 北アラス

- 1. Jenisseisk
Iénisseisk
- 2. Krasnojarsk
Krasnoïarsk

- 3. Irkutsk
Irkoutsk
- 4. Jakutsk
Iakoutsk

- 5. Transbaikalien
Transbaikalie
- 6. Tschita
Tchita

エニセイスク1省。首府はクラスノヤールスク2府なり、エニセイ河畔に位す。
Krasnojarsk

イルクーツク3省。イルクーツク府は本省の首府にして、又東シベリア總督の駐在する所なり。

ヤクーツク4州。首府をヤクーツク府と云ふ、レナ河の谷地に位す。
Yakutsk

トランスバイカリア5州。首府をチタ6と云ふ、本府より西南にキヤクタあり、清國の賣買城と、茶及び毛皮の互市
Transbaikalia Chita

今尙盛んなり、チルチンスク7府はチタ府の東にある一小都會なり。
Nertchinsk

黒龍江州。首府をブラゴヴェスチエンスク8府とす、黒
Blagovieschensk

- 7. Nertschinsk
Nertchinsk
- 8. Blagowjeschtschensk
Blagovietchensk

龍江の岸に位し、黒龍江往復汽船航路の中點に當り、市街繁盛なり。

沿海州。ウラジオストツク9府は其首府なり、シベリアの
Vladivostok

門戸とも稱すべき地位を占むるを以て、ロシア政府もこれを以てシベリア鐵道の起點、及び太平洋艦隊の根據地とし、又シベリア海兵團を設置し、砲台、造船所の設悉く具はれり、然れども毎年十二月下旬より、翌年四月中旬に至るまでは、港内氷結す、本港より函館へ四百四十五哩、長崎へ六百八十四哩、元山津へ三百四十哩を隔つ、本邦人の在留するもの頗る多く、本邦貿易事務館あり。

ハバロフカ10府は黒龍江の右岸に位し、沿黒龍江總督の
Khabarovka
(ハバロフカ)

駐在する所なり、ニコライエスク¹府は黒龍江の河口にありて、其左岸に位す、もと鎮守府の在りし地にして、今尙繁華なり。

樺太島² もと我國の有たりし地なり、南岸のクルサコーフ³港に我領事館あり。

二。中アジア⁴
Central Asia
總論

位置、境界。中アジアはロシア行政上區域の名稱にして、北はシベリアに接し、南はヘルシア、アフガニスタンに境し、又バミール高原を隔て、イギリス領印度に接し、東は支那に界し、西はロシアに接す。

- 3. Korsakowsk
Korsakowa
- 4. Central-Asien
Asie Centrale

- 1. Nikolajewsk
Nikolajewsk
- 2. Sachalin
Sakhaline

面積。凡そ本邦に八倍せり。
區劃。行政上左の三大部に分つ。

- (一) 曠原¹ 北部に在り。
Steppe
- (二) トルケスタ² 通常西トルケスタ²ン、又はロシア領トルケスタ²ンと稱する部分。
Turkestan
- (三) トランスカスピアン地方³ 裏海の東にある部分。
Trans-Caspian

地勢。一躰に低平なる曠原にして、唯南東部には天山及びヒンヅークーシユ兩山系の支脈綿亘して高原山岳を見る、曠原は所々に沃地あり、河岸は概ね一帯の沃地なり、裏海の沿岸は地中海面より低し。
水系。湖沼頗る多くして、大抵無口湖なり、河流はこれ等

- 1. Amu Darja
Amou Darja
- 2. Sir Darja
Syr Darja

- 3. Aral
Aral
- 4. Balchasch
Balkach

- 5. Kaspischer See
Mer Caspienne

の湖に注入するを以て、所謂内地灌域に屬するものなり、河流の夫なるものは、伊犁河の外に、Amu Darja アムダリア¹ 及びSyr Darja シルダリア² の二流あり、各三角洲をなして、Aral アラル³ 海に注ぐ、シナイル河なりとの評あり、又伊犁河は天山北路より來り、Balkash バルカッシユ⁴ 湖に注ぐ。

湖沼の大なるものを裏海、アラル海、バルカッシユ湖とす、裏海⁵ の面積は凡そ二萬八千餘方里、略我邦に等しく、其海面は地中海面より低きこと八十四尺なり、此三大湖はもと深く入り込みたる一大内海の跡にして、皆鹹湖なり。

氣候。大陸性の氣候を有すれども、稍溫和なり、降雨の量

は多からずして、旱魃の患少からず。

住民。人口凡そ八百萬、トルコ種最も多數を占め、ペルシ ア種これに次ぐ、近來、スラ ヲ種次第に移住の數を加ふ、人民は多く回教を信じ、大抵遊牧を業とし、駱駝を用ゐて通商に従事す。

政治。ロシアは軍政を以てこれを治む、トルケスタン總督は南部、オムスク總督は北部を管し、各部の酋長を統御す。交通。裏海、アラル海、並にシルダリア、アムダリア兩河は汽船を通じ、又トランスカスピアン鐵道は裏海の東岸より起り、サマルカンドに達す、近時此線路を延長して、支那の西境に達せんとする計畫あり。

地方誌。

- 1. Taschkent
Tachkend
- 2. Samarkand
Samarkand

- 3. Buchara
Boukhara
- 4. Omsk
Omsk

タシユケント¹は南部の中心にして、トルケスタン總督
 此所に駐在す、サマルカンド²は往昔帖木兒の東大陸を并
 合したる時の舊都なり、ボツハラ³は舊時ヘルシア學問の
 盛なりし所にして、貿易今尙盛なり、オムスク⁴はイルチツ
 シユ河畔に在りて、總督此所に駐在し、ロシア領中アジアの
 北部を治む。

三。コーカサス⁵

Caucasus

總論

位置、境界。黒海と裏海との間に位する地方にして、往々
 分ちてヨーロッパ及びアジアに屬せしむることあり。

- 1. Transkaukasien
Transcaucase
- 2. Elbrus
Elbrouz

- 3. Dariel
Dariel
- 4. Ararat
Ararat

北はマニツチ河によりてロシアに接し、南はヘルシア及
 びアジアトルコに隣り、面積三萬方里あり。
 區劃。コーカサス¹山脉、中央を横斷して、地勢を二分す、
 北部を北部コーカサスと云ひ、南部をトランスコーカシア
 と云ふ。

地勢。コーカサス山脉西北西より東南東に走る、南北兩
 側に急斜し、最高點をエルブルーズ²峯とす、高さ一萬八千
 尺を超ゆ、此山脉は中間に一大斷層ありて、ダリエル³の峠
 をなし、軍事上必要な通路をなす、又南には小コーカサス
 山脉あり、其最高點はアラ、ット⁴山にして、高さ一萬七千
 尺あり。

河流は北境のマンニツチ^{Manitch}河稍名あり。

住民。人口凡そ一千萬、コーカサス種を多しとす、容貌の美なるを以て世に名あり、此人民は音楽を好むこと殊に甚しく、多くは回教を信ず。

産業。コーカサス山脉の兩側に低地ありて、地味肥沃なり、又パーク¹の石油は、世界に名高し。

交通。北部はロシアの鐵道に連接し、ロスト²よりダリエル³の麓に達す、南部にてはバツ⁴より起りて、パーク⁴に至る。

地方誌。

チフリ⁵はコーカサスの首府にして總督此所に駐在

- 1. Manytsch
Manytch
- 2. Rostow
Rostow

- 3. Batum
Baloum
- 4. Baku
Bakou

- 5. Tiflis
Tiflis

す、ペルシアとの貿易も亦盛なり、パーク¹は有名なる石油産地にして、又裏海の要港なり、砲台の設堅固なり。

第三節。西、アジア。

一、イラン諸邦¹

甲。ペルチスタン²

北はアフガニスタン、南はアラビア海、東はイギリス領印度、西はペルシアに接す、面積二萬二千方里、人口五十萬、イラン高原の一部をなし、地味瘠薄なれども、沿岸は米及び果實を産す、首府をケラツト³と云ふ、國內數部に分れ、ケラツトの酋長これが長たり、此國はイギリスの保護國なり、交通は

- 1. Iran
Iran
- 2. Balutschistan
Baloutchistan
- 3. Kelat
Kélat

(アツア) 四アツア

凡て駱駝に依る、人民は多く遊牧を業とす。

乙、アフガニスタン Afghanistan

北はロシア領中アジア、南はベルチスタン、西はヘルシア、東はイギリス領印度に接す、面積四萬方里、人口四百萬、中央にヒンヅークーシユ山系綿亘し、南部はイラン高原の一部なり、地味物産はベルチスタンに同じ。

人民はベルチスタンと同じく回教を信じ、大抵遊牧の民なり、國內數部に分れ、これを總轄する王(アミール)はカブール²に住す、主要なる市邑をカブール及びカンダハル³とす、鐵道はカンダハルより起り、印度に通ず。

丙、ヘルシア⁴ Persia

1. Afghanistan
Afghanistan

2. Kabul
Kaboul

4. Persien
Perse

3. Kandahar
Kandahar

西アジアの中央に位し、イラン高原の大部をなす、東はアフガニスタン、ベルチスタン、西はアジアトルコ、北はコーカサス、裏海及びロシア領中アジア、南はヘルシア灣、アラビア海に接す、面積十萬五千方里あり。

地勢。北部にエルプールの山脈あり、其脈ヒンヅークーシユ山系に連る、全國高原性にして、大部は沙漠なり、殊に北部の大鹽沙漠は最も大なり、沿岸の一半はヘルシア灣に沿ひ、一半はアラビア海に濱す、此兩海灣の相通ずる所はオームズン灣をなし、ヘルシア、アラビア間の海峡をオルムズ¹海峡と云ふ。

水系。河流の稍大なるものはカルーン²河にして、アジ

1. Ormus
Ormuz

2. Karun
Karoun

(アソフ) 四アジア

Karun

(八十三)

アトルコ[○]のシヤタル[○]アラブ[○]河に[○]注ぎ、[○]下流は舟楫を通ず、[○]氣候は大陸性[○]にして、[○]乾燥酷烈なり。

住民。人口凡九百萬、遊牧の民と定住の民とあり、宗教は

回教を信じ、風俗淳良にして、教育も近來大に進歩し、泰西の

學藝を採用し、ヨーロッパ人を聘して各種の學校を建設せり。

産業。山地殊に南西に面する部分のみは森林繁茂せり、

物産の主なるものは、米、麥、護謨、絹及び阿片なり。

政治。君主專制にして、君主を「シヤール」と云ふ、常備兵は二

萬四千餘人にして、海軍は六百噸の蒸汽船一隻と、河蒸汽船

一隻あるのみ。

交通。道路未だ十分に發達せず、鐵道は僅かに首府テヘ

- 1. Teheran
Téhéran
- 2. Isfahan
Ispahan
- 3. Buschir
Bouchir
- 4. Arabien
Arabie

ランの近傍に六哩の一短線あるのみ、電信線は主要なる都府を連結す、カルカッタよりヨーロッパに通ずる電線も此國を通過す。

地方誌。

テヘラン¹はヘルシアの首府にして、國の北部に位す。

イスパハン²は國の中央にある舊都にして、ブーシール^{Bushire}

はヘルシア灣の北岸にある貿易港なり。

アラビヤ⁴

アラビヤはヘルシア灣と紅海との間に介在する大半島にして、其南部を除き、他の沿岸一帯の地はアジアトルコに屬せり、内部は沙漠多く、河湖なく、唯降雨の時にこれを見る

のみ、中部は高原性を呈し、沿岸の地には豊沃なる所あり、行政上エジプト、アジアトルコ及酋長、これを分轄すれども、實際はイギリスの制肘を受くること少からず。

人口凡そ五百萬、大抵游牧を業とし、アラビア種なり、「マホメット」¹の生地なれば、多く回教を信ず、棗、珈琲、馬を以て最も著名なる物産とす、棗は人民の常食にして、駱駝は運搬に用ふ、メッカ²はマホメットの誕生地にして、メヂナ³は其

終焉の地なり、二地共に回教徒の巡拜を絶たず。
アデン⁴は紅海の口に近く横はれる、イギリス領の港にして、ロンドン⁵を距ること五千哩、スエズ、ボンベイ間の海底電線は此地を經過す、此地より又ザンジバル⁵を経て、喜望

- 1. Mohammed Mahomet
- 2. Mekka La Mecque
- 3. Medina Médine
- 4. Aden Aden
- 5. Sansibar Zanzibar

Zanzibar

峰に海底電線を通ず。

三、アジアトルコ¹
Turkey in Asia

トルコ帝國のアジアに於ける領地にして、東はヘルシア、西は地中海に面し、ダルダネルス、ボスフォラス二海峡、及びマルモラ海を隔て、ヨーロッパに對し、北はユーカサス、黒海に接し、南はアラビアに境し、面積十一萬方里あり、域内を小アジア、アルメニア²、クルヂスタン³、メソポタミア⁴及びシリアの五部に區別す。

北部は山多く、南部は高原又は低地なり、南部メソポタミアはユーフレチス、チグリス兩河の灌域に當る、又シリア⁵の南部には、死海の窪地ありて、海面以下に位す。

(アラブ) (四アア)

- 1. Asiatische Türkei Turquie d'Asie
- 2. Armenien Arménie
- 3. Kurdistan Kurdistan
- 4. Mesopotamien Mésopotamie
- 5. Syrien Syrie
- 6. Kleinasien Asie Mineure

- 7. Smyrna
Smyrne
- 8. Tigris
Tigre
- 9. Euphrat
Euphrate
- 10. Schatt-el-Arab
Chat-el-Arab
- 11. Jordan
Jourdain
- 12. Totes Meer
Mer Morte

小アジア⁶は黒海及び地中海に突出する半島にして、沿岸屈曲に富み、スミルナ⁷の如き良港あり。

河流はヘルシア灣頭に注げるチギリス⁸及びユーフレチス⁹二河有名にして、河口に近く相合して、シヤテルアラ¹⁰河をなす、又死海に入るヨルダン¹¹河あり。

湖沼の有名なるものは、シリアの南部に死海¹²あり、地中海面より低きこと凡そ千三百尺、其水非常に鹹味を有し、鹽分百分中二十六、ヨルダン河等これに注入す、此地方は基督教の歴史上最も有名なる所なり。

氣候。北方の山地及び高地は氣候寒冷にして、南部は炎熱なり、アルメニア及びクルヂスタンは大陸性氣候を帯び、

- 1. Haleb
Alep
- 2. Beirut
Beyrouth
- 3. Smyrna
Smyrne
- 4. Damascus
Damas
- 5. Jerusalem
Jerusalem
- 6. Bagdad
Bagdad

小アジアの西南部は海に面して溫和なり。

住民。人口凡そ二千二百萬、トルコ種を最とす、宗教は回教を信じ、人民は遊牧を業とするもの多し。

物産は穀物、絹、綿、珈琲、阿片を主なるものとす、外國貿易は盛んにして、アレツポ¹、ベールート²を主要なる港とす、スミルナ³は小アジアとヨーロッパとの貿易の中心にして、ダマスカス⁴はシリア貿易の中心、ジエルサレム⁵は基督墳墓の地なり。

バグダット⁶はチギリス河畔に位し、河口を距ること二百里、小蒸汽船を通ず、印度、ヨーロッパ間の電線は此地を通過す、此地は又昔時アラビヤ學藝の中心たりし所なり。

1. Cypren
Chypre

2. India
Inde

地中海に於ける大島にして、面積六百万方里、人民は大抵ギリシヤ教を信じ、イギリス領なり。

第四節。南アジア。

一、印度。²

印度は支那の南に在る、イギリスの領地にして、北はヒマラヤ山系及びバミール高原を以て、支那及びロシア領中アジアに接し、南は印度洋に瀕し、東はシヤムロ及びフランス領印度支那に接し、西はアフガニスタン及びベルヂスタンに境す。

- 1. Dekan
Dékau
- 2. Komorin
Komorin
- 3. Palk
Palk
- 4. Ceylon
Ceylan
- 5. Indus
Indus
- 6. Pandschab
Pendjab
- 7. Ganges
Gange
- 8. Delhi
Delhi
- 9. Allahabad
Allahabad

面積。凡そ三十萬方里あり。

地勢。印度は一大半島にして、一に前印度と云ひ、一大山地、一大平原及び一大高原(デツカン)¹より成る。

沿岸。屈曲に乏しく南端をコモリン²岬とす、南東には

ポーク³海峡を隔て、セイロン⁴島あり。

水系。インダス⁵河は源を西藏に發し、ヒマラヤ山系を

横斷し、パンジヤフ⁶地方を過ぎ、遠くアラビア海に入る、全

長七百四十里、河口は一大三角洲をなす。

ガンダス⁷河は源をヒマラヤ山系の南面に發し、德里⁸

アラハバット⁹を過ぎ、印度半島の東境に達し、ブラマ

トラと合し、南下して有名なる大三角洲をなし、ベンガル

(フアン) 南アジア (九十一)

灣頭に注ぐ。

- 1. Brahmaputra
Brahmapoutre
- 2. Sanpo
Sanpo

ブラマプートラ河は上流をサンポ^{Sanpo}河と云ひ、其源を西藏に發し、ヒマラヤ山系を横斷し、南西に流れてガンダス河に合流す、此兩河の生成する三角洲は、其廣大なること世界第一と稱す。

氣候。大高原あり、大平原あり、又地球上第一の高山あり、且つ緯度殆んど二十六度に亘るを以て、其氣候は一ならずと雖ども、概して乾熱、濕熱、冷涼の三季節あり、季候風の爲めに降雨の季節には雨量非常に大にして、河水増大し、灌漑の便を得、ガンダス、ブラマプートラの三角洲は、地球上最大の雨量を有し、一ケ年一萬二千五百三十耗に達する處あり。

- 1. Sanskrit
Sanskrit
- 2. Hindu
Hindou
- 3. Drawida
Dravidien

住民。人口凡そ三億、人種は「サンスクリット」^{Sanscrit}の文字を用ゆる「ヒンヅ」^{Hindu}種を主とし、「ツラヴィデア」^{Dravidian}種これに次ぐ、「ヒンヅ」種は北部の大平原に多く、「ツラヴィデア」種はデツカン高原に多し。

印度の人民には四大階級あり、「ブラーマン」即ち僧族第一の階級を占め、兵族これに次ぎ、商農等を含める族又これに次ぎ、最下級に位するを賤民とす。

宗教。大抵婆羅門教を信じ、回教徒これに次ぐ、此國は佛教起源の地なれども、本邦に於ける如く行はれず。

政治。行政上印度はイギリス帝國の一部にして、殖民地に非ず、直轄部及び藩部に分ち、直轄部は八州に區別す、マド

ラス及びボンベイには總督を置き、其他の州には副總督、代官等を置きてこれを治す。藩部は全く土人の王、酋長等の自治に任ず、總轄するに印度大總督ありて、首府カルカッタに駐在す。

産業。地味豊饒、氣候炎熱、面積の廣大なるに加ふるに、農業の法能く開けたるを以て、農産最も豊なり、其主要なるものを綿、米、阿片、茶、藍、菜種の類とす。

山林は大なるもの多く、殊にヒマラヤ山地は有名なり、又榕樹の巨大なるものあり。

動物には虎、豹、獅子の如き猛獸の外、毒蛇あり、又象は農業上にこれを用ゆ。

貿易。人口三億に垂んとする大邦土なるを以て、商業頗る盛んなり、輸出品の主なるものは、綿花、米、木織緯、菜種、阿片、茶、獸皮及び藍にして、輸入品の主なるものは、綿布及び金屬なり、我國に輸入する。ボンベイ綿は、普く人の知る所なり。

交通。道路及び運河大に發達し、近來最も長足の進歩をなしたるは鐵道にして、全長二萬哩を超ゆ、電線は國內の主要なる都府に通じ、又ヨーロッパに連絡せり。

地方誌。

1. Kalkutta
Calcutta
2. Patna
Patna

カルカッタは首府にして、印度大總督此處に駐在す、人口八十六萬、府は河口を距ること三十二里餘の處にあり。

パトナはカルカッタの西北に當り、ガンヂス河の左岸

Patna (Patan) 南シヤン

1. Gaya
Gaya

2. Bombay
Bombay

3. Madras
Madras

4. Tuticorin
Tuticorin

5. Ceylon
Ceylan

に位す、其南にガヤ^{Gaya} 1 あり、釋迦の誕生地を以て其名高し、ベ
ナールはカルカッタの北西に位し、婆羅門教徒の最も尊敬
する市街なり。

ボンベイ^{Bombay} 2

は西岸にあり、人口八十二萬、カルカッタ及び
ヨーロッパとの郵便線路は此地を通過す、現今イギリス領
印度、商業上の中心としては、其繁盛の度、遙かにカルカッタ
の上にある、日本郵船會社航路のボンベイ線に當り、毎四週
一回、横濱と本港との間を往來す、本邦領事館あり。

マドラス^{Madras} 3

は東岸にあり、人口四十五萬、チヌチコリン^{Tuticorin} 4
は洲の南部にありてセイロン^{Ceylon} 5 島に對す、此港には本邦の
船舶時々寄港することあり。

附セイロン。

印度半島の南東隅にありて、恰も朝鮮の濟州島に於ける
が如し。

氣候炎熱にして、熱帶性植物能く繁茂す、又金剛石及び眞
珠を産するを以て古より名あり、此島は釋迦の教を弘めた
る地にして、人民今尙佛教を奉ず、西岸にコロムボ^{Colombo} 1 あり、東
西交通の衝に當れる要港なり。

附フランス領印度。

印度半島南東岸の一部を占むる。ポンヂシエリ^{Pondicherry} 2 四近
の地は、フランス領印度の一部にして、貿易繁盛なり。

附ポルチュガル領印度。

附アフリカ

2. Ponditscherry
Pondichery

1. Kolombo
Colombo

- 1. Goa
Goa
- 2. Nepal
Nèpaul

- 3. Katmandu
Katmandou
- 4. Bhutan
Boutan

- 5. Punakha
Pounakha
- 6. Indo-China
Indo-Chine

ボンベイの南南東ゴア¹は、ポルチユガル領印度の一部にして面積二百二十方里に過ぎず。

附子ポール²
Nepal

子ポールはヒマラヤ山系中に於ける一獨立國にして、首府をカトマンヅと云ふ。

附ブータン。
Khatmandu

ブータン⁴はヒマラヤ山地の東部に於ける一獨立國にして、首府をプナカ⁵と云ふ。

一、印度支那⁶
Punakha

甲、フランス領印度支那。
Indo-China

支那の南方に位し、印度支那の東部を占む、北は支那本部

に接し、南は支那南海及びシヤム口灣に濱す、面積凡そ四萬五千方里、邦制上、トンキン、安南、コチン支那、カンボヂアの四部に分る。

地勢は横斷山脉の餘派、城内に綿亘し、南方に至るに従ひ、高度を減ず、北部及び南部の河岸には平地少からず。

河流の大なるものは、紅河及びメーコン¹河なり、紅河は

一にソンコイ²河又トンキン河と稱す、源を雲南省に發し、

南に流れて東京に入り、トンキン灣に注ぐ、メーコン河は一
カンボヂア³河と稱す、上流は瀾滄江と云ひ、支那海に入
る。

氣候。熱帯に屬するを以て、炎熱にして乾濕二季に分る

- 1. Me-kong
Mè-kong
- 2. Song-ka
Song-Coi
- 3. Kambodja
Cambodge

一年間の雨量は頗る多し。

人口凡そ二千餘萬、蒙古種を主とす、遊惰にして虚飾を好み、佛教を信じ、學問あるものは儒教を貴ぶ、皆フランスの殖民地に非れば保護國なり。

産物は雨量多きを以て、米の産額夥しく、シヤムロと共に所謂ナンキン米の産出地として有名なり。

地方誌。

トンキンⁱ

古の交趾の地にして、支那の南にあり、紅河の

流域に當り、多量の米を産す、首府を河内²と云ふ、海防³は

良港にして貿易繁盛なり。

安南⁴ トンキンの南にある狭長の地方なり、首府を順化

- 3. Hai-fong
Hai-phong
- 4. Annam
Annam

- 1. Tong-king
Tonkin
- 2. Hanoi
Ha-noï

- 1. Hué
Hué
- 2. Cochinchina
Cochinchine

- 3. Saigon
Saïgon
- 4. Kambodja
Cambodge

- 5. Pnom-peng
Pnom-penh
- 6. Laos
Laos

- 7. Sihan
Chan
- 8. Siam
Siam

と云ひ、一にヒュエ¹と稱す。

交趾支那² 安南及びカンボディアの南にありて、首府をサ

イゴン³と云ふ、メーコン河の下流に位し、總督此所に駐在

す、主要なる産物は米なり。

カンボディア⁴ 交趾支那の北にあり、人民多くコーカシア

ン種に屬す、首府をプノンペン⁵と云ふ、メーコン河に濱す。

老撾⁶ 老撾はビルマ、カンボディア、トンキン、安南、支那の間

に介在する一地域にして、一にシヤン⁷國と稱す、高岳親王

印度に至るの途、薨じ玉ひし地なり。

乙、シヤムロ⁸

印度支那半島の中部を占め、面積凡そ五萬方里、横斷山脉

の一派國中に綿亘して遂に馬來半島に至る南部は一帶の平地にして、ナンキン米の産地なり、河流の大なるもの二あり、一はメーコン河にして、一はメナム河なり。

Menam

人口凡そ五百萬、佛教を信ずるもの多く、回教これに次ぐ、怠惰にして進取の氣象に乏しきも、近來國王大に泰西の學藝を輸入して、國運の一新を圖れり、國人好んで檳榔子の實を噛み、其齒黒し。

王國にして内閣あり、外務、内務、司法、大藏、文部、工部、兵部等の諸部より成りて、多くは王族これが長官たり。

常備兵は五千人なり、海軍は二十二隻の小艦より成り、三千噸の巡洋艦一隻を有す、古來より我國との關係密接にし

て、山田長政の事蹟は人口に喰灸する所なり、本邦條約國の一なり。

地味肥沃にして、多額の米を輸出し、林産にはチーク材あり、鑛産には金及び寶石あり、畜産の著しきを象とす、運搬及び軍用に供す。

交通。メナム河は水運の便あれども、河口に沙洲ありて大船を通ずるを得ず、バンコック府より南及び東に鐵道を通じ、有名なる森林及び農産地を經過し、電線は國の内外主要の地に通ず。

バンコックはシヤムロの首府にして、貿易の中心たり、人口凡そ二十萬、メナム河口を距ること八里、王宮及び官署は

構造壯麗、規模宏大なり、本邦公使館の設あり。

丙、イギリス領海峽殖民地。

馬來半島の南部を占め、シンガポール¹、ピナン²、二島、及びマラッカ³を含み、外に數多の部落を兼轄す。

丘陵中央を縦貫し、地勢狹長、氣候は炎熱なれども、驟雨ありて暑氣を和ぐ、シンガポール及びピナン等の良港あり、シンガポールには本邦領事館の設あり。

丁、ビルマ⁴。

イギリス領印度の一部にして、印度支那の西部を占め、上下二部に分れ、面積我國と匹敵す、イラワデー⁵、サルウイン⁶の二河、國內を貫流せるを以て、地味肥沃、交通に便なり、人

- 1. Singapur
Singapour
- 2. Pinang
Pinang

- 3. Malaka
Malacca
- 4. Birma
Birmanie

- 5. Irawadi
Iraouadi
- 6. Saluen
Salouen

- 1. Mandale
Mandalès
- 2. Rangun
Rangoun

- 3. Malai
Malaise
- 4. Bali
Bali

- 5. Lombok
Lombok

民は蒙古人種にして、盛んに佛教を奉ず、首府はマンダレー¹にして、イラワデー河畔に位し、ラングーン²は南部の要港なり。

三、マレー群島³。

馬來群島は東印度群島の一部にして、アジアとオーストラリアとの間に横はる、バリ⁴、ロンボック⁵、兩島間の海峽は、海底深く、且つ此の西北と東南とに於て、動植物の状態を異にするが故に、これを以て兩大陸の境界線となす。

面積十一萬餘方里、分ちてフィリッピン群島、ボルネオ、大サнда列島とし、スペイン、オランダ、イギリス三國の分領する所なり。

- 1. Java
Java
- 2. Krakatoa
Krakatoa
- 3. Batavia
Batavia
- 4. Luzon
Luzon
- 5. Manila
Manille
- 6. Borneo
Bornéo
- 7. Sandakan
Sandakan

此群島は世界罅裂地帯の焦點に當り、隨て火山作用の劇烈なること、地球上其比を見ず、ジャヴァ¹島の如きは三十座の活火山を有し、クラカトア²島の大火山は、明治十六年八月一日、一大破裂をなして、殆んど全世界に影響を及ぼしたり、氣候は熱帯に位するを以て酷烈なり。

人口凡そ三千四百萬、マレイ種を主とし、土人は大抵マレイ語を用ふ、宗教は回教、基督舊教多し。

オランダは總督府をジャヴァのバタヴィア³に置き、これを治め、別に印度艦隊を有す、スペインは總督府をルゾン

島のマニラ⁴に置き、二十餘隻の艦隊を以て守護し、イギリスは知事をボルネオ⁶のサンダカン⁷に置き、これ

を治む。

農産には砂糖、珈琲、煙草あり、林産に富み、香木少からず、ボルネオの金及び金剛石、バンカ¹島の錫最も名あり、本邦へは盛んに砂糖を輸出す。

地方誌

スペイン領

フィリッピン²群島 北にはルゾン³ 南にはミンダナ

オ⁴の大島あり、ルゾン島の南西岸にある都府をマニラと云ふ、總督府のある所、南洋貿易の中心點にして、煙草の製造最も盛なり、本港は大風、地震、雷鳴、劇しく發作するを以て名あり、本邦領事館の設あり。

- 1. Banka
Banka
- 2. Philippinen
Philippines
- 3. Luzon
Luzon
- 4. Mindanao
Mindanao

1. Sulu
Soulou

ズールー¹島。ミンダナオの西にあり、本島とボルネオ島間の海をズールー海と云ふ。

オランダ領。

3. Java
Java

大サンダ³列島。ジャヴァ、スマトラの二大島と、附近の

島嶼を含む。ジャヴァ³島はオランダ領の中、最も主要なるものにして、其^{Java}ジャヴァ³島には總督府あり。

5. Sumatra
Sumatra

スマトラ⁵島はジャヴァの東にあり。

7. Banka
Banca

クラカタア⁶はジャヴァ、スマトラ兩島の間にある小島なり。

8. Bali
Bali

なり。

9. Lombok
Lombok

バンカ⁷島はスマトラの東にあり、バリ⁸島はロンボッ

10. Borneo
Bornéo

ク⁹島と相對す、ボルネオ¹⁰島はニューギニア¹¹に次げる

11. Neu Guinea
Nouvelle Guinée

12. Sandakan
Sandakan

世界第二の大島にして、南方の大部はオランダに屬す、

イギリス領。

ボルネオ島の北部にして、主要なる都府をサンダカン¹¹

と云ふ。

1. Oceanien
Océanie

2. Australasien
Australasie

3. Malaysien
Malaisie

4. Polynésien
Polynésie

第三章。オセアニア。i

Oceania

第一節。總論。

オセアニアとは太平洋に於ける無数の群島及びオーストラリアを總稱するものにして、大別して三となす。

一、オーストララシア。² オーストラリア、ニューギニア及び近傍の諸島を含む。

Australasia

二、マレイシア。³

Malaysia

三、ポリネシア。⁴ 狭義のポリネシア、メラネシア及びマイクロネシアより成る。

Polynesia

第二節。邦土誌。

一、オーストララシア。

オーストララシアはオーストラリア、タスマニア及びニューギニアより成る。

甲、オーストラリア。

Australia

オーストラリアは面積廣大なるを以て、通常これを大陸の中に算入す、此大陸とアフリカとの間には、著しき類似の點あり。

(一) 共に其形状一大團塊をなし、外形頗る簡單にして、著しき出入なし。

(二) 共に東側に最高山脈ありて、東南に最高峰あり。

(三) 内地に廣大なる沙漠を有し、其中所々に泉地あり。

(オセアニア) 邦土誌

Australien
Australia

- 1. Nil
Nil
- 2. Murray
Murray

- 3. Mozambique
Mozambique
- 4. Torres
Torres

- 5. Alfuren
Arafoura
- 6. Timor
Timor

(四) 最長の河(ナイル 1 河及びムルレイ 2 河)の水量河口に至るに従ひ、中途にて減少す。

(五) 東海岸の近傍には南に向ふ海流あり、(モザンビック 3 海流及び東オーストラリア海流)。

オーストラリアはアジアの東南に位し、北はトーレス 4 海峡、アラフラ 5 海及びチモール 6 海を隔て、ニューギニア及びサンダ諸島に對し、西及び南は印度洋に面し、東は太平洋に臨む、面積凡そ五十萬方里、ヨーロッパより小にして、世界最小の大陸なり、行政上分てヴィクトリア、新南ウエイルス、クイーンズランド、南オーストラリア、及び西オーストラリアの五部とす。

Why you are mistaken.

- 1. Victoria
Victoria
- 2. Austral-Alpen
Alpes Australiennes
- 3. Kosciusko
Kosciusko
- 4. York
York
- 5. Prinz von Wales.
Prince de Galles
- 6. Donnerstag
Jeudi

地勢。高度甚しからざる一面の高地にして、東海岸及び西海岸に山脉連亘す、高地の大部は沙漠にして、數多の鹹湖其間に存在す、此大沙漠を大ヴィクトリア 1 沙漠と云ふ、海岸の山脉中、東側に於けるもの稍高峻にして、これをオーストラリア、アルプス 2 と稱す、其最高峰コシユースコ 3 山は、七千餘尺に達す、この山脉と中央高地との間は、ムルレイ河の灌域なり、海岸線の凸凹甚しからず、唯北方ヨーク 4 の一大半島、長く海中に突出し、トーレス海峡を隔て、ニューギニアに對し、プリンス、オウ、ウエイルス 5 群島其間に横はる、木曜 6 島此中にあり、ヨーク半島の西は、カーペンタリア 7 灣深く灣入す、南方にはスペンサー 8 灣を除くの外、深き出入

(オーストラリア) 邦土籍

- 7. Carpentaria
Carpentaria
 - 8. Spencer
Spencer
 - 9. Bass
Bass
 - 10. Tasmanien
Tasmanian
 - 11. Townsville
Townsville
 - 12. Brisbane
Brisbane
 - 13. Sydney
Sydney
 - 14. Melbourne
Melbourne
 - 15. Adelaide
Adelaide
 - 16. Murray
Murray
 - 17. Eyre
Eyre
- なく、オーストラリア大灣の如きは、唯海岸の少しく彎曲したるに過ぎず、東南は、^{Bass}9 海峽を隔て、^{Tasmania}10 に對し、又ヨーク半島の東側は、一大珊瑚堡礁ありて、陸地と十里乃至八十里を隔て、相連り、南方に延び、南回歸線の近傍に達す、東岸及び東南岸には小なる灣入ありて、良港に乏しからず、^{Townsville}11、^{Brisbane}12、^{Sydney}13、^{Melbourne}14 及び ^{Adelaide}15 の如きこれなり。
- 水系。河流の大なるものは、^{Murray}16 河あるのみ、此河はコシユースコ山の西方に發し、西北に流れ、數多の支流を合し、海に入る、上流まで舟楫を通ずれども、河口は淺くして、小舟も海より入ること能はず、湖水の有名なるものはアイマ ^{Eyre}

- 7. Carpentaria
Carpentaria
 - 8. Spencer
Spencer
 - 9. Bass
Bass
 - 10. Tasmanien
Tasmanian
 - 11. Townsville
Townsville
 - 12. Brisbane
Brisbane
 - 13. Sydney
Sydney
 - 14. Melbourne
Melbourne
 - 15. Adelaide
Adelaide
 - 16. Murray
Murray
 - 17. Eyre
Eyre
- 湖あり、此四近には數多の鹹湖あり。
- 氣候。オーストラリア大部の氣候は、乾燥、酷熱なるを特性とす、但し東岸は海上よりの風を受け、山脉に遮られて凝縮するが故に雨量多し、東及び東南の海岸を除くの外、溫度の劇變甚し、降雨の配布も非常に不規則にして、洪水、旱魃の二害共に甚しく、無雨の季には、河多くは乾涸し、^{Murray}16 河と雖ども舟楫を通ずるは、雨季に限れり。
- 住民。人口凡そ三百五十萬にして、概ねイギリス人の子孫なり、土人即ちオーストラリア黑人種は、非常に減少し、目下三萬に足らず、早晚絶滅に歸すべし、即ち此大陸は、全くイギリス人の土地と見るべし、教育は年々進歩し、^{Adelaide}15、^{Sydney}13、^{Melbourne}14、^{Brisbane}12、^{Townsville}11、^{Bass}9、^{Spencer}8、^{Carpentaria}7、^{Eyre}17

メルボルン、シドニーに各大學の設けあり。

政治。各部に總督ありて、行政の事務を掌り、各議會を有す、近時各部聯合の議會を設け、行政上の統一を計るの議ありシドニーはオーストラリア艦隊の根據地なり。

産業。オーストラリアは頗る鑛物に富み、殊に金を第一とす、又石炭を産す、植物界の産にありては、穀物、菓實はもと此地に産せざりしものなるが、今は已に移植せられて、夥多の産額あり、牛、馬、羊の如き家畜も亦然り。

オーストラリアの天産物中、植物に在ては、ユーカリ樹を特有とす、又動物に在りては、胎生獸は全くこれを欠き、ジャヴァ、スマトラに存せる虎、象、犀の如きも亦此地にこれを見

Eucalypt
Eucalyptus

1. Kanguru
Kangaroo

ず、而して「カンガロ」の如き有袋獸あるを、此大陸の特性とす、要するに、動植物共に極めて高等なる種に乏しきは、これ此大陸の面積小にして、且つ變化に富まざるを以てなり。

工業及び貿易も次第に盛大を來し、本邦との貿易額は凡そ二百餘萬圓なり、本邦よりの輸出品は米を主とし、此地よりの輸入品は羊毛を主とす。

交通。主要なる都府は大抵鐵道を以て互に連絡し、總計一萬一千餘哩に達す、然れども普通の道路は修築未だ全からず、これが爲め近傍の旅行却て困難なることあり、ポート・ダルウィン²より海底電線アジアに通ぜり、近時日本郵船會社の船は横濱を發し、神戸、長崎、香港を経て、此大陸の木曜

2. Port Darwin
Port Darwin

(オーストリア) 邦土誌

(百十七)

島、タウンスヴィール、ブリスベイン、シドニー、メルボルンに至り、所謂濠洲線の航路を開始せり。

地方誌

ヴィクトリアⁱ 全大陸の東南隅を占め、パツス海峡を隔て、タスマニアに對し、ムルレイ河を以て新南ウエイルスに境す、此大陸の區劃中最も小なれども、工業最も盛大、人口最も稠密なる地方なり、メルボルン² は首府にして、人口四十餘萬、其港は船舶常に輻輳し、貿易甚だ隆盛、南洋第一の都會にして、大學の設けあり。

新南ウエイルス³ はヴィクトリアの北にあり、首府をシドニー⁴ とす、人口四十萬、オーストラリア最舊の都會に

- 1. Victoria
Victoria
- 2. Melbourne
Melbourne

- 3. Neu-Süd-Wales
Nouvelle-Galles de Sud
- 4. Sydney
Sydney

して、其繁盛メルボルンに次ぐ、大學の設けあり、良好なる港にして、イギリス海軍の根據地なることは已に述べたり、本邦領事館あり、永らくの⁵ 領事館なり

クイーンズランド¹ 全大陸の東北部を占む、首府をブリスベイン² と云ふ、木曜島はトレス海峡諸島の一にして、良港を有す、³ タウンスヴィール³ は東岸にありて、本港とナリスベインとの中間に位す、本邦領事館あり。

南オーストラリア⁴ 全大陸の中部を占め、北部はカーペンタリア灣及びチモール海に濱し、⁵ ポートダルウィン⁵ は其一部にあり、アジアに通ずる海底電線及び此大陸を横斷する陸上電線の接續點なり、又南部には首府アデレード⁶

(オーストリア) 邦土誌

(百十九)

- 1. Queensland
Queensland
- 2. Brisbane
Brisbane

- 3. Townsville
Townsville
- 4. Süd-Australien
Australie Méridionale

- 5. Port Darwin
Port Darwin
- 6. Adelaide
Adelaide

あり、大學の設けあり。

西オーストラリア¹ 全大陸の西部を占め、其内部は南オ
West Australia

ーストラリアに連続せる一帯の沙漠なり、稱して大ウイク

トリア沙漠と云ふ、首府をパース²と云ふ、西南岸に位す。

乙、タスマニア³ Perth Tasmania

オーストラリアの東南隅に當り、パックス海峡を隔て、こ

れに對す、面積殆んど北海道に伯仲し、良港少からず、全島の

氣候冷涼溫和なるを以て、一の保養地となれり、首府をホバ

ート⁴と云ふ、鐵道四方に通じ、交通の中心をなす、此島の土

人は近時終に全く絶滅に歸せり。

丙、ニューギニア⁵ New Guinea

5. Neu Guinea
Nouvelle Guinée

3. Tasmanien
Tasmanie

1. West-Australien
Australie Occidentale

4. Hobart
Hobart

2. Perth
Perth

1. Papua
Papouasie

2. Malaysien
Malaisie

3. Sunda
Sonde

4. Lombok
Lombok

5. Flores
Flores

6. Timor
Timor

7. Celebes
Célèbes

又これをバプア¹と云ふ、世界中最大の島にして、本邦の

二倍より大なり、赤道及びトールズ海峡の間に横はる、此島

山多く、一萬尺に達するの高峰稀なりとせず、森林鬱蒼、地味

豊饒なり、オランダは西半部、ドイツは東北部、イギリスは東

南部を占め、全島此三國の領地なり。

一、マレーシア² Malaysia

小サンダ³列島、ロンボック⁴、フローレス⁵、チモール

等の諸島より成り、火山脈これを貫通す、チモールの南の

海をチモール海と云ふ。

セレベス⁷、此島の形甚だ奇にして、殆んどK字をなせり、

火山多く、多量の金を産す、本島の北半部はオランダに屬す、

(オセアニア) 邦土誌

本島と北方フィリッピン群島との間の海を、セレベス海と云ふ。

モラツカ¹ 諸島。セレベスとニューギニアとの間に横

はれる群島にして、特に丁子の本國として世に知らる、マジ

エラン² の世界一週を企てたりしは、此諸島の金銀、寶玉に

富めるを聞きて、此東海の諸島に達する新航路を發見せん

が爲めなりき、バンダ³ 海とは、モラツカ諸島の南の海を稱

す、これ諸島の一にバンダと稱する小島あるを以てなり。

- 3. Banda Banda
- 4. Polynesian Polynésie

三、ポリネシア⁴

(イ)狭義のポリネシア。これに屬する主要なる島を、ハワイ及びニュージーランドの二島とす。

- 1. Hawaii Havai
- 2. Sandwich Sandwich
- 3. Oahu Oahu
- 4. Mauna Kea Mauna Kea
- 5. Mauna Loa Mauna Loa
- 6. Kilauea Kilauea
- 7. Honolulu Honolulu

ハワイ¹ ハワイはサンドウイッチ² 諸島中の一大島なり、サンドウイッチ諸島は北回歸線の南に接し、十二個の火山島より成り、其最大なるをハワイと云ふ、オアフ³ 島これに次ぐ、活火山の數頗る多く、ハワイのマウナケア⁴ マウナ

ロア⁵ 最も名あり、各凡そ一萬四千尺の高度を有す、マウナ

ロアの一峰キラウエア⁶ の噴火口は、世界最大のものたり、

各島地味豊饒にして、砂糖の産出夥しく、本邦よりの出稼人

二萬六千人の多きに達す、首府をホノルル⁷ と云ふ、オアフ

島にあり、港内水深く、大船を入るゝに足る、日本郵船會社の所謂米國線航路の船舶は此に寄港す。

此國はもと土人の王國なりしも、アメリカ合衆國よりの

(オアフ) 邦土誌

1. New Zealand
Nouvelle-Zélande

2. Stewart
Stewart

3. Cook
Cook

4. Südliche Alpen
Alpes de Sud

5. Cook
Cook

移住民實際の權を占め、遂に王國を廢して共和國となしたり、然るに近時此國を合衆國に合併することとなり居れり。
ニユージージーランド¹。ポリネシアの最南部に當る大島なり、オーストラリアの南東に位し、全く温帯中にあり、北島、南島の二大島と、スチュアート²の一小島よりなる、南北二島はクック³海峽にて相離れたりと雖も、全體より見れば、形狀イタリヤと同じく、長靴に密似す、但し左右見る所を異にするのみ。

南島は高山脈西岸に沿ふて走る、これを南方アルプス⁴と稱す、クック⁵山は其最高峰にして、高さ一萬二千尺餘あり、其大氷河は一奇觀なり、北島にては山脉東海岸に接近し、

3. Waikato
Waikato

1. Egmont
Egmont

2. Rotomahana
Rotomahana

火山多し、其最高峰をエグモン¹山となす、高さ八千餘尺、形ち我富士山に似て甚だ佳なり、又ロトマハナ²の間歇温泉は最も名ありて、ワイカト³河の水源に位す。
氣候温暖にして劇變なし、海軟風連りに吹て、夏季は暑熱を知らず、冬季は寒威を減じ、南部にても雪を見ること稀なり、濕潤なる西北風常に多きを以て、西海岸は東海岸に比して、雨量多し。
人口は七十萬に過ぎず、此中土人は極めて少し、全島イギリスの所轄にして、總督は文武の政を掌る、産物は羊毛及び金を主とす、本島の天産物に就ては、オーストラリアに存せるカンガロは此島になし、又蝙蝠の外哺乳獸なし、此島に固

(オーストラリア) 邦土誌

- 1. Apteryx
Apteryx
- 2. Wellington
Wellington

- 3. Auckland
Auckland
- 4. Tonga
Tonga

- 5. Freundschafts
Amis

有の鳥あり、アプテリックス¹と稱し、羽翼短くして地を走る、穀物菓實はもと本島に成りしも、近時の移植により盛んに産出あり、鐵道次第に延長し、又オーストラリアに海底電線を通ず。

ニユージーランドの首府はウエリントン²にして、北島の南東端にあり、オークランド³は北島の西岸にあり、商港として、又海軍の根據地として緊要なり。

ポリネシアに屬する島尙數多あり、此中トンガ⁴（フレンドリー⁵）島はニユージーランドより、サントウイツチ諸島に至る、漁船皆寄港するを以て重要なり、何れも珊瑚島又は火山島にして、ポリネシア人種に屬する土人これに住し、大抵

- 1. Samoa
Samoa
- 2. Melanesien
Mélanesie
- 3. Salomo
Salomon
- 4. Neue Hebriden
Nouvelle-Hébrides
- 5. Neu-Caledonien
Nouvelle-Calédonie
- 6. Fidschi
Fidji

イギリス又はフランスの領地なり、但しサモア¹は獨立の王國なり。

(ロ)メラネシア²に屬するは、サロモン³ ニユーヘブリー
Melanesia Salomon New Hebrides
ア⁴ ニユーカレドニア⁵ フィジー等の諸島にして、火山
New Caledonia
島又は珊瑚島多く、メラネシア人種これに屬す、此中最も重要なるは、ニユーカレドニア及びフィジー二島なり、ニユーカレドニアは貴金屬に富み、多量の白銅を出す、此島はフランスに屬す。

フィジー⁶ 群島は南回歸線の北少許の所にあり、島數二百餘なり、地味豊饒にて、甘蔗の産額頗る多し、首府をヌヴァア⁷と云ふ、此群島はイギリス領にして、ニユージーランド、

(オセアニア) 第七節

新撰地理之外部國中篇

- | | | | |
|---------------------------|----------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 13. Marianen
Mariannes | 11. Carolinen
Carolines | 9. Gilbert
Gilbert | 7. Suva
Suva |
| | 12. Palao
Pelew | 10. Marshall
Marshall | 8. Mikronesien
Micronesie |

中等新撰地理 外國ノ部

(百二十八)

オーストラリアを経て、イギリスとの間に定期の航海あり、
将来太平洋貿易の中心たるべき所なりとす。

(ハ)ミクロネシア 8 ギルバート 9 マーシャル 10 カロリン
Micronesia Gilbert Marshall Caroline
 11 パラオ 12 及びマリアナ 13 の五群島を包み、珊瑚島多し、土
Palao Marianna
 人の種類一定せず、スペイン領多く、イギリス領及びドイツ
 領もこれあり、マリアナ群島は最も我國に接近する火山島
 にして、其火山脈は我富士帯に接続せるものなりとす。

第四章。 ヨーロッパ。

Europe

第一節。 總論。

位置。 東半球の西北、アジア大陸の西方に突出する半島状の大陸なり、世界諸大陸の中心たるを以て、交通の燒點たり。

アジア及びヨーロッパの比較。 兩大陸の相類似せる點を擧ぐれば、一、大なる半島ありて皆南に向ひ、二、東南に大なる群島を有し、三、山地、高原は主として南部に存し、四、三箇の半島南部にありて其關係相似たり、次に相反對せる諸點を示さば左の如し。

アジア

ヨーロッパ

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 一、最大なる大陸なり。 | 一、最小なる大陸なり。 |
| 二、一様廣大なる高原の大
陸なり。 | 二、表面頗る變化錯綜せる
大陸なり。 |
| 三、半島は僅に全面積の五
分の一を占む。 | 三、半島は全面積の三分の
一を占む。 |
| 四、海岸線は短し。 | 四、海岸線は頗る長し。 |
| 五、世界最高の山あり | 五、世界最高の山なし。 |
| 六、雙子河數多あり。 | 六、雙子河一もなし。 |
| 七、概して大陸的氣候を有
す。 | 七、大抵海洋的氣候を有す。 |

八、アジアは東西の交通稍
容易なるも、南北の往來
は高原これを妨ぐ。
八、ヨーロッパは北より南
に至るに、通路困難を感
ずること少しとす。

境界。北は北氷洋に面し、南は地中海、黒海に臨み、マニッ
チ河の谷を以て、アジアと境を限り、東はウラル山脉、ウラル
河及び裏海を以て、アジアに境し、西は大西洋に面す。

面積。凡そ六十二萬方里、即ちアジアの四分の一より小
に、世界の十三分の一より小に、支那帝國より少しく小なり。
區劃。行政上二三の小獨立國を除き、十七個國あり、即ち
ロシア、トルコ、オーストリア、ハンガリー、イギリス、ドイツの
五帝國、スペイン、ポルトガル、イタリー、ベルギー、オランダ、

デシマルク、スヰーデン、ノルウェー、ルーマニア、セルヴィア、ギリシヤの十王國、及びフランス、スヰツツルの二共和國あり。

地勢。南部にはアルプス^{Alps} 1 山系蜿蜒し、其脈東西に延び、

又支脈を出す、アルプス山系は、イタリアとフランス、スヰツツル及びドイツ帝國との境をなし、其最高點はモンブラン^{Mont Blanc}

2 とす、高さ殆んど一萬六千尺あり、アルプスの氷河は一大

壯觀なり、此山は舊時交通の一大隔壁をなしたるも、近時隧道を通じて鐵道を敷設したり。

アルプス山系は東に延び、二脈に分れてハンガリー^{Hungary} 1 の

大平原を包む、これをカーパシアン^{Carpathian} 2 山脈とす、此山脈更に

- 1. Ungarn
Hongrie
- 2. Karpaten
Karpathes

- 1. Alpen
Alpes
- 2. Mont Blanc
Mont Blanc

- 1. Balkan
Balkans
- 2. Apenninen
Apennins
- 3. Pyrenäen
Pyrenées
- 4. Kjolen
Kjolen
- 5. Skandinavien
Scandinaves
- 6. Aetna
Etna
- 7. Vesuv
Vesuve
- 8. Stromboli
Stromboli

南東に走りてバルカン^{Balkan} 山脈となり、バルカン半島に蟠る、

アルプス山系より南走する山脈は、アペニン^{Apennine} 2 山脈にし

て、イタリア半島の主軸をなす、ピレネー^{Pyrenees} 3 山脈はスベ

ンの北部を限り、東西に連亘し、交通上の一大障屏をなす。

キレオン^{Kjolen} 4 山脈はスカンデナヴィア^{Scandinavia} 5 半島にあり、ウラ

ル山脈はアジアの境上に綿亘して、共に南北に走り、其高度

は大ならず。

火山脈。地中海の沿岸には火山脈少からず、火山の主要

なるものを擧ぐれば、エトナ^{Etna} 6、ヴェスヴィウス^{Vesuvius} 7、及びスト

ロンボリ^{Stromboli} 8、あり、又氷洲にヘクラ^{Hecla} 9 山あり。

ヨーロッパの山脈は多く南部に偏在し、北部は一大平原

- 13. Corsica
Corse
- 11. Lion
Lion
- 9. Hekla
Hekla
- 14. Sardinien
Sardaigne
- 12. Genua
Gènes
- 10. Gibraltar
Gibraltar

をなす、其内最も著名なるは北ドイツ及びロシアの平地とす、南部は山多く、高原も少からず、就中スペイン及びバルカン半島は高原性を呈す、南部山地の間にも平地少からず、就中最も大なるはハンガリーの平原なり。

沿岸。面積に比して、海岸線の長さは、六大洲中の第一にして、數多の半島突出し、港灣の出入に富み、島嶼又少からず。

(イ)地中海の沿岸。大西洋より地中海に入り、これが門

戸たるジブラルタル 10 海峡を過ぎて、東北に至れば、リ

オン 11 灣あり、此より東方に向ひ、ジェノア 12 灣を過ぐ

れば、イタリー半島の西岸にして、海岸線南東に走り、ユル

シカ 13 及びサルデーニア 14 の二島西方にあり、而して南

Sardinia

Cor-

sica

Lion Lagona

- 7. Kreta
Crète
- 5. Adriatisches
Adriatique
- 3. Messina
Messine
- 1. Sicilien
Sicile
- 8. Archipelag
Archipel
- 6. Ionisches
Ionienne
- 4. Taranto
Tarente
- 2. Malte
Malte

方はシシリー 1 島これを限る、シ、リー島の南にはマ

ルタ 2 の小島あり、シ、リー島とイタリーとの間なる

Malta 3 海峡を過ぎ、北東に向ひ、タラント 4 灣を過

ぐれば、イタリー半島の東岸にして、海岸線は北に走り、

アドリアチック 4 海の西側をなす、これが東側はオー

Adriatic

ストリア及び其附庸國の西岸にして、海岸線南東に走

り、終にバルカン半島の南端に達し、屈曲に富みたるギ

リシヤの海岸となり、アイオニア 6 群島其北西部に

羅列す、ギリシヤの南東にはクリート 7 島あり、同島の

北は即ちギリシヤの多島海 8 なり、多島海の間を横ぎ

り、ヨーロッパ、アジアの間なるダルダケルス海峡を過

(ヨーロッパ) 地輪

(七)

- 5. Viscaya Gascogne
- 6. Nord See Mer du Nord
- 3. Azówsches Azov
- 4. Iberische Ibériques
- 1. Krim Crimée
- 2. Odessa Odessa

ぎ、マルモラ海に入り、更にコンスタンチノール府を左に見て、ボスフォラス海峡を過ぐれば、黒海に出づ。黒海の南岸は小アジアの區域に屬し、屈曲に乏し、然れども北部にはクリミア^{Orimea} 1 半島突出し、西にオデッサ^{Odessa} 2 の要港をなし、東方にはアゾフ^{Azov} 3 海をなす。×
 (ロ) 大西洋の沿岸。大西洋岸も亦屈曲に富めり、アイベリアン^{Iberian} 4 半島及びフランスの西北岸は、稍出入に乏しく、唯ビスケイ^{Biscay} 5 の大灣あるのみ、フランス、イギリスの間なる、イギリス海峡を過ぎて東すれば、北海^{North Sea} 6 の區域に入る、北海の西側は良港に富み、東側はデンマルク及びスカンデナヴィア^{Scandinavia} 兩半島これを限る、兩半島の相對

- 7. Island Islande
- 8. Weisses Meer Mer Blanche
- 5. Finnland Finlande
- 6. Liverpool Liverpool
- 3. Baltisches Baltique
- 4. Bottnischer Bothnie
- 1. Skager Rak Skager Rack
- 2. Kattegat Cattégat

する間は、スカゲルラック^{Skager Rack} 1 及びカッタガット^{Cattégat} 2 海峡なり、これより東は北に彎入してバルチック^{Baltic} 3 海をなし、其北東部に二大灣をなす、北なるをボスニア^{Bohnia} 4 灣と云ひ、東なるをフィンランド^{Finland} 5 灣と云ふ。イギリス及びスカンデナヴィア半島の西岸は、一體に屈曲に富み、殊にイギリスには良港多く、リヴァプール^{Liverpool} 6 最も名あり、洋中遙かに氷洲^{Iceland} 7 の大島あり。(ハ) 北氷洋岸。此海岸は屈曲に乏し、獨り白海^{White Sea} 8 ありて深く彎入す、又東北隅にノヴァゼンビア^{Nova Zembla} 9 の大島ありてカラ^{Kara} 10 海の西側を限る。

水系。ヨーロッパには河川多く、又一方に偏在せずして

(ヨーロッパ) 地理

- 17. Rhein Rhin
- 15. Po P6
- 13. Dniepr Dniéper
- 11. Wolga Volga
- 9. Nowaja Semlja Nouvelle Zemble
- 18. Dwina Dwina
- 16. Seine Seine
- 14. Donau Danube
- 12. Don Don
- 10. Kara Kara

四方に流れ、全體に配布宜しきを得、河口は多く開て三角江となり、良港をなす、且つ支流多くは本流と直角に流れ、以て國中遠隔の地に至るの便あり、加之諸河は多く運河を以て連結せらる。

ヨーロッパの大河は、裏海にウラル、ヴォルガ11の二河あり、ヴォルガはヨーロッパ第一の長流なり、地中海にドン12、ツニーバー13、ダニュープ14、ポ15等の諸河あり、ダニュープはヨーロッパ第一の大河なり、大西洋に注ぐものは、多くは地中海に於ける如く大ならざれども、水運の便は却て大なり、其主なるものをセイヌ16、ライン17等とす、又白海に注入するドヴァイナ18河あり。

- 3. Genfer Genève
- 4. Boden Constance
- 1. Ladoga Ladoga
- 2. Onega Onéga

○湖沼。東北の平原には數多の湖沼ありて概ね淺し、ラドガ¹オネガ²最も大なり、アルプス山系の湖は水深く、又湖畔の風景を以て著はる、ジエネヴ³ア³及びコンスタンヌス⁴の二湖最も名あり。

氣候。ヨーロッパの全部は殆んど温帯に位し、海洋の影響を受くるが故に、氣候温和にして、且つ同緯度にある他の大陸より温暖なり、而して此大陸の温度は、固より南より北に行くに従て減ずれども、其差は西より東に至るに従て尙一層甚しとす、これ灣流及び風の影響による、大西洋の灣流は此大陸の西岸を洗ふが故に降雨多く、且つ氣候を温暖ならしむること大なり。

産業、農産は平原地方に盛にして、又南部には葡萄の産出多し、山地は森林に富み、特にドイツを盛なりとす、又畜産に富み、羊及び馬は最も多し、鑛産は頗る富裕にして、鐵及び石炭を主とし、イギリス、ドイツこれが産地の最たるものなり、其他ウラルは貴金屬に富み、カーパシアン山脉は岩鹽に富む。

住民。人口凡そ三億二千萬にして、アジアの三分の一より多し、其密度最も小なるは東北部、最も大なるはイングランド、西部及びベルギーなり、これ等の地において、印度及び支那の一部に於けると密度を同ふす。

人種。ヨーロッパ人種を第一とし、(スラトウ)2、ギリシ

1. England
Angleterre

2. Slav
Slave

3. Grieche
Grec

3. Teuton
Teuton

4. Türke
Turc

1. Roman
Romain

2. Kelt
Celte

ヤ3 ローマン1 セルツ2 及びチユイトシ3 の五大族に分

つトルコ4 種これに次ぐ。

宗教。ヨーロッパは概ね基督教國なり、基督教は舊教新

教及び希臘教の三大派に分る、舊教は其信者一億五千萬人ありて、主としてヨーロッパの南部、ローマ種中に行はる、新教は八千五百万の信徒を有し、ドイツ人種中に行はる、希臘教は八千萬の信徒を有し、主としてロシア、ギリシヤ等に行はる、回教徒の過半はトルコに在り。

文明。ヨーロッパは實業、學術、技藝の進歩世界に其比を見ず、隨て其邦多く富強にして、就中イギリス、ドイツ、フランス、イタリー、オーストリア、ロシアをヨーロッパの六大強國

Russland
Russie

と稱す。

教育。教育は固より隆盛なりと雖ども、最も進歩せるはドイツにして、フランス、イギリスこれに次ぐ。

第二節。ロシア。

Russia

總論

ロシアはヨーロッパの東部に位せる大國にして、北は北氷洋に、南は黒海に濱し、又マニツチ河及び裏海を隔て、アジアに境し、東はウラル山脉及びウラル河を以てアジアに接し、西はスウェーデンノールウエーに接し、バルチック海に濱し、又ドイツ、オーストリアハンガリー、ルーマニアに接す、面積三十五萬方里、即ちヨーロッパの大半を占む、大別して

- 1. Finland
Finlande
- 2. Polen
Pologne

- 3. Tundra
Toundra
- 4. Ural
Ourals

- 5. Dwiná
Dvina
- 6. Nawa
Néva

ロシア本部、フィンランド¹、ポーランド²の三部とす。

地勢。ロシアは一大平原より成り、稍高き丘地、國の中央を走り、其北は低濕の平地にして湖沼頗る多し、其最北部は「タンドラ」³にして、鮮苔及び灌木を生ずるのみ、中央高地の南も亦一帯の低地にして、裏海沿岸は地中海の水面以下に位す、山脉と稱すべきものは、國の東方に限りて、アジアと境をなせるウラル⁴山脉あるのみ、其山勢急峻ならず。

水系。ロシアは河川に富み、此河流及び運河に依りて、裏海、アゾフ海或は黒海より、白海或はバルチック海に至ることを得べし、今其有名なるものを擧ぐれば、北氷洋に注ぐものに、ドヴァイナ⁵、バルチック海に注ぐものにネヴァ⁶及

(C-B-A-K) Dvina

(F-H) Néva

- | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------------|------------------------|
| 7. Onega
Onéga | 5. Wolga
Volga | 8. Dnjepr
Dnieper | 1. Waichsel
Vistula |
| 8. Saima
Saima | 6. Ladoga
Ladoga | 4. Don
Don | 2. Dnjestr
Dniester |

びウイヌチユラ¹あり、黒海に注ぐものにヅニースター²
Vistula
 及びドニ³ 裏海に注ぐものにヴォルカ⁵ 及
Dnieper
 びウラルの諸河あり、此中ヴォルガ、ヅニ⁴及びドニの
Don
 三河は最も名あり、交通はもと主として此等の河川に依り
 しものにて、此國産業の發達は實に河川の力なり。
 湖沼。西北部はヨリロツバに於て最も大なる湖水を有
 す、ラドガ⁶ オチガ⁷ これなり、フィンランドは湖沼の丘地
Ladoga Onega
 とも稱すべく、其最大なるものをサイマ⁸ 湖とす。
Saima
 氣候。多くは大陸性氣候にして、雨量少なし、河水は冬季
 氷結す、蓋し全國平原濶然として、北方の寒風及び南方の暖
 風を受け、中間一もこれを遮ぎる山脉なきを以て、夏冬溫度

の差甚し。

住民。 人口は一億六百餘萬、ヨリロツバの三分の一を占
 め、スラーヴ種の一、ロシア種を主なるものとす。

宗教。 宗教はギリシヤ教最も多く、ロシア皇帝はこれが
 首長たり、即ち此國の國教にして、これをギリシヤ正教と稱
 す、舊教も亦少からず。

教育。 高等及び中等教育は進歩せざるにあらざれども、
 初等教育は微々たり。

政治。 君主專制にして、中央政府には四の政治機關あり、
 參事院、元老院、宗務院、及び内閣これなり、皇帝は其國教の長
 たるを以て、宗務院の權限は頗る大なり。

地方は六十八洲より成り、數多の洲を合して、一總督管區とし、全國を五總督管區に分つ。

兵備。常備は平時八十七萬、戰時二百五十萬の陸軍あり、海軍は世界第三位に居り、一等戰艦十八隻の多きに達す、バルチック艦隊はクロンスタットを根據とすれども、冬季は氷結す、黒海艦隊は地中海に出づる能はず。

産業。南部地方は一面の農業地なり、黒土と稱する地質にして、穀物能く生熟す、此國の富は主として此にあり、中部は森林地にして、林産も亦主要なる産額あり、水産も亦富裕にして、裏海及び諸河口を最とす、畜産はヨーロッパ第一にして、就中馬最も多し、鑛産は金、白金及び鐵に富み、主として

1. Nishnii Nówgorod
Níyni Novgorod
2. Riga
Riga.

ウラル山脉にあり、又石炭の多量を埋藏すと云ふ、工業は漸次盛大を來し、特に食料品及び綿布に關する業を然りとす。貿易。ロシア内地の商業は頗る盛大にして、ニジューニ、ノヴゴロツド^{Novgorod}を其中心とす、外國貿易も亦漸次盛大を來し、輸出品は農産物殊に小麥を第一とし、輸入品は茶、綿等を推し、セント、ペートルスブルグ^{Riga}、リガ、²オデッサ等を主なる輸出港とす、本邦條約國の一なり。

交通。ロシアは水利大にして、且つ鐵道も近來長足の進歩をなし、其已に開通せるもの二萬六千哩に餘れり、シベリア鐵道完成の日には、ウラジオストツクより、セント、ペートルスブルグまで、十日餘にして達すべし、郵便、電信の制度も

次第に發達し、電信線路の長さ三萬二千餘里、電話線路の長さ八千里に垂んとす。

地方誌

一、ロシア本部。

セント、ペートルスブルグ¹ St. Petersburg

- 1. St. Petersburg
St. Pétersbourg
- 2. Kronstadt
Kronstadt

人口百二十七萬、フィンランド灣頭に位し、ネヴァ河畔にあり、市の地面頗る低く、大船は七里の沖にあるクロンスタット² 島に碇泊せしが、近時深さ二十二尺の運河を開きたるにより、數多の船舶府内に達するに至れり。

此府は又外國貿易の一大中心たるを以て、市街繁盛なり、有名なるペートル一世騎馬の像は、儼として街頭に立ち、王

- 1. Warschau
Varsovie
- 2. Riga
Riga

宮官衙の壯麗なること、ヨーロッパ中他に其比類を見ず、大學校、女子大學校及び帝國圖書館あり、ネヴァ河は運河によりて、ヴォルガ河に通ずるを以て、此府はロシア内地との水利頗る大なり、又四大鐵道^二はフィンランド灣の西岸、一はワルソー^一はモスコ^一に通ずるの中心にして、交通至便の地^{Warsaw}にあり、然れども冬季は寒氣嚴烈にして、海面も河水も氷結し、全く交通を絶つ、本邦公使館あり。

- 3. Moskau
Moscou
- 4. Napoleon
Napoléon

リガ² リガ灣頭に位し、ロシア第三の貿易港なり。
モスコ³ セントペートルスブルグの南東に當れる舊都にして、人口殆んど百九萬、全國の中央に位し、商業の中心たり、鐵道及び水運の利ありて、交通至便なり、ナポレオン

(一) ロッパ (二) ロッパ

(三) ナポレオン

4 一世の攻め來りしとき、ロシア人全市を焼きて退去し、フランス軍大に窮したることあり、ロシア帝は此地に於て戴冠式を行ふを常とす。

ニジニノサゴロツド¹。モスコイの東に當り、七月より九月に至る間の大市場なり。

ロシア第一の貿易港、易港の便度

オデッサ²。ロシア第二の貿易港にして、人口四十萬、黒海艦隊の根據地なり、又義勇艦隊はウラジオストツクと本港との間を往復す、府の南東に突出するクリミア半島に、セバ

ストポール³の砲臺あり。

セバストポール³はウオルガ河口に位し、裏海の要港にして、アジアとの貿易繁盛なり。

- 3. Sewastopol Sébastopol
- 4. Astrachán Astrakan

Shar'ls St. Peters bury

- 1. Nishnii Nówgorod Nijni Nougorod
- 2. Odessa Odessa

- 5. Schweden-Norwegen Suède-Norvège
- 6. Skandinavien Scandinavie
- 3. Finland Finlande
- 4. Helsingfors Helsingfors
- 1. Polen Pologne
- 2. Warschau Varsovie

一、ポーランド¹。此地方は舊時のポーランド王國の一部にて、其中心をワルソー²とす、人口六十一萬、舊王國の都たり。

二、フィンランド³。フィンランドはボスニア灣の東、フィンランド灣の北を占む、第一の都會をヘルシンヅフオーリス⁴と云ふ、フィンランド灣口の北に位し、堅固なる砲臺あり。

第三節。スウェーデンノールウェイ⁵ Sweden-Norway

總論。

ロシア國の西北に當り、スカンヂナヴィア⁶半島の全部をなす、北は北氷洋に、東はバルチック海及びロシアに接し、

(ポーランド) (ワルソー) (フィンランド) (ヘルシンヅフオーリス) (スウェーデンノールウェイ)

1. Kjölen
Kiølen

南は海峽を以てデンマルクに對し、西は大西洋及び北氷洋に臨む、面積五萬方里、行政上ノールウエイ及びスウェーデンの二邦に分れ、合して一王國をなす。

地勢。一面高原性を呈じ、南部は一體に高く、北部に於ては、キオレン¹ 山脉あり、其軸西に偏して、國中を奔れり、此以

東はスウェーデンの地にして、バルチック海に向て地勢緩斜し、以西はノールウエイの地にして平原なし、

沿岸。ノールウエイ海岸は狹隘なる入海ありて、兩岸絶壁をなす、これを峽灣² と稱す、又無數の群島前に羅列し、自ら大西洋の荒濤を防禦す。

氣候。西部の海岸は灣流の影響を受くるを以て溫暖に

2. Fjord
Fiord

one of the three great-fishing places in the world

して、其最北の港灣も氷結するものなし、これに反して東部の港灣は、大陸性氣候を有して、冬季氷結す。

住民。人口凡そ七百萬、大抵チュートン種にして、新教を奉ず、教育は普及せり。

政治。スウェーデン、ノールウエイは、合して、一立憲王國を爲すと雖ども、各立法、行政及び陸海軍を整へて獨立なり、本邦條約國の一たり。

産業。スウェーデンは農産及び鐵石炭に富み、林産は兩國共に富裕なり、ノールウエイは世界有數の水産國にして、其鯡及び鱈は産額最も多し。

兩國の輸出品は材木、鐵及び水産物を主なるものとす。

(キョーレン) スウェーデンノールウエイ

地方誌。

- 1. Stockholm
Stockholm
- 2. Christiania
Christiania

ストックホルム¹ スウェーデンの首府なり、バルチック海に濱する良港にして數多の島上に立てり、クリスチアニア² はノールウェイの首府にして、又第一の貿易港なり、冬季は兩港海水氷結して航通を絶つ、ベルゲン³ は國の西岸に在りて、第二の貿易港なり、水産を以て其名最も著はる。

第四節。デンマルク⁴

Denmark

總論

ドイツの北方に突出する半島及び附近の島嶼より成る、北及び東はスカゲルラック及びカッテガットの二海峡によりて、スカンデナヴィアと相臨み、西は大西洋に面す、面積凡そ

- 3. Bergen
Bergen
- 4. Dänemark
Danemark

Fär Öer
Farær

二千五百方里、此他氷洲及びフアロー¹群島の殖民地あり。

地勢は概するに低平にして、沿岸は往々海面以下に位する所あり、故に堤防を嚴にして海水の侵入に備ふ、國土の面積小なるを以て隨て河の大なるものなし、氣候溫和なれども霧深くして濕潤なり。

住民。人口二百萬、チユートン種に屬し、新教を奉ず、教育は普及し、立憲王國なり、海軍は微弱にして、戰艦一艘あるのみ、本邦條約國の一なり。

物産。平地にして、地味多くは農耕に適し、穀物は此國の主なる物産なり、牧場に富み、畜産は牛酪及び豚頗る多し。

地方誌。

- 1. Jütland
Jutland
- 2. Kopenhagen
Copenhagen

- 3. Island
Islande
- 4. Hekla
Hékla

- 5. Deutschland
Allemagne

デンマルクはジャトランド¹半島と數多の島嶼より成る、首府をコーペンハーゲン²と云ふ。

デンマルク⁴の主要なる殖民地を氷洲³とす、イギリスの

西北に當り、本國を距ること七百里なり。人口僅に七萬に過ぎず、此地は火山に富み、其數二千有餘あり、其最も有名なるをヘクラ⁴と云ふ、此島の間歇温泉は其名天下に高し。

Hekla

第五節。ドイツ⁵

Germany

總論。

ドイツはヨーロッパの中央にある一強國にして、北はバルチック海、北海及びデンマルクに、東及び南はロシア、オーストリア及びスヰツツルに、西はオランダ、ベルギー及びフ

- 1. Preussen
Prusse
- 2. Bayern
Bavière

- 3. Nehrung
Nehrung
- 4. Donau
Danube

- 5. Inn
Inn

ランスに接す、面積三萬五千餘方里、¹プロシヤ、²バヴァリア、³外王國二、大公國六、公國五、侯國七、自由市三、帝領一より成る。

地勢。地勢は平原及び高地の二に分る、國の中央以南は高地に屬し、森林多く、北部は一面低平なる地にして、所謂北ドイツの平原なり。

沿岸。沿岸は出入に乏し、北海の海岸は低平なるが故に、堤防を嚴にし、海水の侵入に備ふ、バルチック海の海岸は沙洲一帶、遠く並行し、天の橋立に似たる現象あり、これをネーリング³と稱す。

Nehrung

水系。

Danube

河は源を國の西南部に發し、⁴イン⁵

(C. H. A. K.)

Prussia

(二十九)

Inn

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 7. Rhein
Rhin | 5. Dresden
Dresde | 3. Breslau
Breslau | 1. Weichsel
Vistule |
| 8. Boden
Constance | 6. Hamburg
Hambourg | 4. Elbe
Elbe | 2. Oder
Oder |

河を合せ、オーストリアに入る、ヨーロッパ第一の大河なり、
 ヴィスチチエラ¹河は源をオーストリア、ハンガリーに發し、
 ポーランドに入り、バルチック海に注ぐ。

オードル²河も源をオーストリアハンガリーに發し、ド
 イツの南東部に入り、北東流してブレスラウ³を過ぎ海に
 入る、此河は運河によりてエルベ河に通ず。

エルベ⁴河は源をオーストリア、ハンガリーに發し、北西
 に流れ、ドレスデン⁵ハンブルヒ⁶を過ぎ海に入る。

ライン⁷河はドイッ第一の大河なり、源をス、井ツツルの
 アルプス山系の氷河中に發し、北流してコンスタンス⁸湖
 に入り、これより出で、遂に北に屈折し、オランダに入り、ロ

Rotterdam
Rotterdam

ツテルダム^{Rotterdam}の南に於て、數多の三角洲をなして海に入る、舟
 運の便大にして、又運河によりてダニユープ、ローヌ二河に連
 る、此河はドイッの國河とも稱すべきものなり、河畔の風景
 も亦ヨーロッパに其名高し。

氣候。バルチック海沿岸地方の氣候は、ロシアの如く寒
 冷にして、北海地方はヨーロッパ西部の温暖なる氣候を有
 す、ライン河畔の如きは最も溫和なり、中央以南の高地は寒
 暑共に甚しく、特に氣候の劇變を以て名高し。

住民。人口五千二百萬、大抵ドイッ種にして、正直、勇敢、勤
 勉、愛國の情に富む。

過半新教を奉じ、舊教も少からず、教育は世界中最も進歩

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 3. Sachsen
Saxe | 1. Leipzig
Leipzig |
| 4. Württemberg
Wurtemberg | 2. München
Munich |

し、特に中等、高等及び工業教育最も盛大なり、大學の數二十
一の多きに達し、就中ベルリン、ライプツヒヒ¹、ミュンヘ²
ン²の大學最も名あり。
Leipsc Munich

政治。ドイツは立憲政体にして帝國なり、四王、六大公、五
公、七侯國と三自由市との聯邦に成る、別に帝領一あり、王國
はプロシヤ、バヴァリア、サクソニト³、ウエルテンベルヒ⁴
なり。
Saxony Württemberg

ドイツ皇帝はプロシヤ國王これに當る、議會には二種あ
り、聯邦議會及び帝國議會これなり、聯邦議會は恰も上院の
性質を有す。

兵備。陸軍は常備兵五十九萬、最も精銳なりと稱す、海軍

は近來長足の進歩をなし、世界第四位に居り、戦闘艦の數も
十七隻に達せり、近時又大に海軍を擴張するの計畫あり、本
邦條約國の一なり。

産業。ドイツの産業は何れも盛大なり、農産は北ドイツ
平原に多く、林産は山林制度頗る完備せるが爲め、中部及び
南部より多額の輸出あり、鑛産はイギリス及び北アメリカ
合衆國に次で最も多し、特に鐵及び石炭に富み、ヒエムニツ
ツ、プレスラウの二地四近最も名あり、工業は近來非常に進
歩したり、工業教育の制度完全なるはこれが主因たり、工業
の中、製鐵を第一とし、製糖及び織物業これに次ぐ。

貿易は主としてイギリス、ロシア、オーストリア、北アメリカ

Chemnitz
Chemnitz

Bremen
Brême

2. Kaiser Wilhelm
Empereur Guillaume

カ合衆國の四國と取引をなし、ハンブルヒ及びブレームン
1は商業上の二大中心なり、明治三十年中本邦よりドイツ
に輸出せし高は二百萬圓なれども、ドイツより本邦に輸入
せし高は千八百萬圓にして砂糖、羅紗、フランネル、鐵釘等を
主とす。

交通。水利は非常に發達し、運河及び河流を合して交通
すべき里數、三千五百餘里に達す、就中運河の最大なるは、ウ
イリアム帝²運河にして、北海とバルチック海とを通ず、鐵
道も亦非常に發達し、殆んど三萬哩に達せんとし、主なる都
府には五線乃至十一線路の中心となれるものあり。

地方誌

- 1. Berlin
Berlin
- 2. Hamburg
Hambourg
- 3. Dresden
Dresde
- 4. Böhmen
Bohême
- 5. Leipzig
Leipzig
- 6. Chemnitz
Chemnitz

ベルリン¹はドイツ帝國の首府にして、又プロシア王國
の首府なり、人口百六十八萬、商業及び製造の一大中心にし
て、特に有名なるベルリン大學あり、本邦公使館あり。

エルベ河流域の都府にはハンブルヒ²あり、河口に近く、
右岸に位し、ドイツ第一の貿易港にして、人口六十二萬、大船
此に到るを得べし、物貨集散の中心として世界有數の要港
なり。

ドレスデン³はボヘミア⁴の國境を距ること遠からず、エ
ルベ河上流の右岸にあり、サクソニー王國の首府なり、其西
に當りてライプチツヒ⁵あり、有名なる大學あり、書籍の出
版盛んなるを以て著る、又ドレスデンの西にヒェムニツツ
あり。

(Berlin) 414

(Chemnitz) 415

6 あり、織物製造の業盛んなり、^{Magdeburg} マグデブルヒ¹ はエルベ河
中流の左岸に位し、ベルリンの南西に當る、製糖の業盛なる
ことドイツ第一なり。

ウエーゼル² 河流域の都府にはブレ^{Bremen} ーメン³ あり、河口
に近く兩岸に跨る、ハンブルヒに次ぎ、ドイツ第二の貿易港
なり。

ケールン⁴ はライン河の左岸に位し、商業の中心として
^{Cologne} コルン⁴ はライン河の左岸に位し、商業の中心として

好位置を占む、フランクフルト、アム、マイン⁵ は、ライン河の
^{Frankfort-on-the-Main} フランクフルト、アム、マイン⁵ は、ライン河の

支流なるマイン河の左岸にあり、碩學ゲーテ⁶ は此に生
^{Goethe} れたり、ストラスブルヒ⁷ はライン河上流の左岸を距ること

一里弱の所にあり、エルザース、ロートリンゲン⁸ の首府
^{Strasbourg} と一里弱の所にあり、エルザース、ロートリンゲン⁸ の首府

^{Alsace-Lorraine} と一里弱の所にあり、エルザース、ロートリンゲン⁸ の首府

- 1. Magdeburg
Magdebourg
- 2. Weser
Weser

- 3. Bremen
Brême
- 4. Köln
Cologne

- 5. Frankfurt-am-Main
Frankfort-sur-le-Main
- 6. Goethe
Goethe

- 7. Strassburg
Strasbourg
- 8. Elsass-Lothringen
Alsace-Lorraine

にして、フランス、スヰツツルに接近するを以て、古來より外
交及び商業上、頗る緊要なる所なり。

右の外南部^{バイエルン} ^{Bavaria} は、^{Munich} ムニッヒェン¹ あり、
其大學及び國立圖書館は有名なり。

ケーニッヒスベルヒ² は北東部にある都府にして、碩學
^{Königsberg} カント嘗て其大學に師たり。

第六節。オーストリア、ハンガリー³ ^{Austria-Hungary}

總論。

ヨーロッパの中部に位し、バルカン半島の西北部に當る、
北はドイツ及びロシアと接し、東はロシア及びルーマニア
に接し、南はアドリアチク海及びバルカン半島の諸邦に

- 2. Königsberg
Königsberg
- 3. Oesterreich-Ungarn
Autriche-Hongrie

- 1. München
Munich
- 8. Elsass-Lothringen
Alsace-Lorraine

接し、西はドイツ、スヰツツル及びイタリアに接す、面積凡そ四萬方里あり、邦制上オーストリア帝國とハンガリー王國とより成る。

地勢。 アルプス山系の東部は、國の西部に綿亘す、其脉東

に連續して、カーパシアン¹ 山脉となり、以て國の北部を限

り、其南側にハンガリーの大平原をなす、アルプス山系より一支脉を出して、國の東南に連り、アドリアチック海岸に沿

ふて走り、又ポヘミアの高地を圍める山脉あり、海岸線は甚だ短く、唯ツリエスト² 港のみ名あり。

水系。 ダニユトプ³ 河は源をドイツに屬するアルプス

山系中に發し、東流してハンガリーのブーダペスト⁴ の地

- 1. Karpaten
Karpathes
- 2. Triest
Trieste

- 3. Donau
Danube
- 4. Budapest
Buda-Pest

に於て、南に轉じ、東流し、ルーマニアに入りて、遂に黒海に注ぐ、全長七百餘里、其半は此國にありて、水運の便至大なり、其ルーマニアとの境には、鐵門の急流ありしも、近時政府は巨資を投じて、これを開通し、船舶の通行を容易ならしむるに至れり。

氣候。 氣候は三様に分る、(一)葡萄の生ぜざる北方氣候、(二)ハンガリー平原の氣候にして、葡萄及び小麥に適し、(三)アドリアチック海に向へる地面の氣候にして、頗る溫暖なり。

住民。 人口四千四百萬、人種は非常に多く、主なるはドイツ種、マギアール種、ポヘミア種、ルーマニア種等にして、言語の種類二十種を超ゆ。

(ヨーロッパ) オーストリア、ハンガリー

地勢の錯雜、人種の夥多、これ此國の特性なり、統御の不便
これにより、近時國勢の振はざる亦これによる。

多くは舊教を奉ず、教育は近來非常に進歩し、初等教育も
漸次普及し、中等及び高等教育も次第に完全となり、大學の
數十一に達す。

政治。一帝國と三王國とより成り、各別に議會及び行政
部あり、而してオーストリア帝は全時にハンガリーの王た
り、其國號はオーストリア、ハンガリーと云ふ、陸軍は平時三
十六萬、戰時百八十七萬の兵を有し、海軍は海岸線の甚だ短
きに比して、稍強盛なり。

産業。農業は甚だ盛大にして、全面積の三分の一は耕作

地なり、畜産は産業中第一位を占む、又鑛産に富み、特に岩鹽
多し、工業はオーストリアを推す、内國貿易は外國貿易に比
して却て盛なり、輸出品の第一は諸種の畜産なり、砂糖及び
農産これに次ぐ。

地方誌。

ヴィエナ ^{Vienna} 1 は首府にして、ダニエーパ河に臨み、人口百
三十六萬、製絹の業盛大なり、大學の設けありて、其醫科大學
は世界に名高し、本邦公使館あり。

プラーク ^{Prague} 2 はボヘミアの中心たる都府にして、エルベ河
の支流に位し、工業盛大なり。

ツリエスト ^{Trieste} 3 はアドリアチック海の窮極する所に位し、

(Trieste) (Trieste) (Trieste)

3. Triest
Trieste

1. Wien
Vienne

2. Prag
Prague

貿易繁盛にして、此國第一の要港とす。

ブーダペスト¹はハンガリーの首府なり、もとブーダ²及びペスト³の二府なりしを、近時これを合して一府となしたり、人口五十一萬、大學の設けあり。

第七節。 スヰツツル⁴

Switzerland

ヨーロッパ大陸の中央にある小國にして、四大國の間に介在し、面積凡そ二千七千方里、我九州に殆んど相等し。アルプス山系の一部を占め、ヨーロッパ中の最高地にして、諸大河の水源地をなし、高山は氷河を有し、山中湖水多く、風景最も美なり、此國半圓形をなし、毫も海に濱せず、ライン、ローヌ、ポールの諸大河は、皆上流を此國に發す。

- 1. Budapest Buda-Pest
- 2. Buda Buda

- 3. Pest Pest

- 4. Schweiz Suisse

- 1. Rhein Rhin
- 2. Rhône Rhône

- 3. Genfer Genève
- 4. Boden Constance

ライン¹河は源を國の南部に發し、北流してコンスタンス湖^{Rhone}に入り、西流し、又北に轉じ、ドイツに入る、ローヌ²河の源はラインの水源に接し、西流してジエネヴァ湖^{Rhone}に入り、これより出で、フランスに入る。

湖水頗る多く、ジエネヴァ³コンスタンス⁴の二湖最も名あり、湖畔風景の美を以て著はる、地勢高きが故に、緯度に比して氣候寒冷なり。

人口殆んど三百萬、新教を奉じ、教育は完全にして大學五あり、國民の三分の二はドイツ語を用ゐ、フランス語これに次ぐ、國民は自由を好み、勤勉にして節儉なり、立憲民主國にして、大統領は行政の長たり、國會は上下兩院よりなる、本邦

(GERMANY) スヰツツル